

インフルエンザ注意報発令中

今週の概要

- 小児科外来情報
- 平成29年12月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	22.46	(12.57)	↑↑↑	↑	↑↑↑	↑↑↑
2	感染性胃腸炎	4.32	(3.62)	→	→	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.82	(1.00)	↓	↓	↓	↓
4	RSウイルス感染症	0.76	(1.47)	↓	↓	↓	↓
5	水痘	0.50	(0.44)	↓	↓	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザが更に増加しています。全ての年齢層から報告がありますが、小児では4～6歳、成人では40～59歳の報告が多い状況です。小児科外来情報にもあるように、A型とB型のウイルスが混合して流行しているようですので、一度感染しても違う型のウイルスに再度感染することがあります。B型は、A型より軽症であることが多く、インフルエンザと気づかず周りと接触し、感染を広げ、流行が続くことが多いです。体調不良を感じたら、無理せず、早めに医療機関を受診し、医師の指示を守りましょう。

例年、ノロウイルスが流行する年末に患者が増加する感染性胃腸炎については、昨年末は例年ほど患者の増加はありませんでしたが、これから春に向けては、乳幼児のロタウイルスによる感染性胃腸炎が流行し始めます。すべての感染症に有効な予防方法は「手洗い」です。こまめに、正しい手洗いを心がけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザの流行は正月休みで一旦減少している。迅速検査ではA型とB型がほぼ半々で検出されている。今シーズンは極めて少なかった感染性胃腸炎が保育園で増加傾向にある。ノロウイルスが迅速検査で検出されている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが流行。A型、B型混在。B型は微熱、消化器症状、の例が多い。

感染性胃腸炎も流行。ロタはまだない。
 他に水痘、少ないが流行性耳下腺炎、と種々雑多の様相。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザが急増。AB比率が1:3とB型が多い。肺炎や熱性けいれん合併例もあるが、微熱のみの軽症例も多い。ノロウイルスの胃腸炎やアデノウイルス陽性の扁桃炎も昨年より流行が続いている。



インフルエンザ注意報発令です!

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(平成29年12月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	12.57	(12.74)	↑	↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	3.62	(5.29)	↓	↓	→	↓
3	RSウイルス感染症	1.47	(1.85)	↓	↓	↓	→
4	A群溶連菌咽頭炎	1.00	(1.74)	↓	↓	↓	→
5	水痘	0.44	(0.59)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

第1週は年始で休診の医療機関が多く、ほとんどの疾患は報告数が減少していますが、インフルエンザの報告は横ばいです。今後、さらに増加すると思われます。保健研究センターでの検査では3種類のウイルスが検出されており、混合して流行しているようです。一度感染しても、種類が違えば再感染するため、何度も発症します。学校保健安全法でインフルエンザは、「発症した後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児は3日)を経過するまで」は、出席停止期間とされています。抗ウイルス薬により、すぐに軽快しても感染性は残っており、この時期に外出すると感染を広げることになります。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成29年12月) ◆

*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
インフルエンザ AH1pdm09	1	1			インフルエンザ(2)
インフルエンザ AH3	1		2		インフルエンザ(3)
インフルエンザ B (山形系統)	1				インフルエンザ(1)
アデノ 1		1			気管支炎(1)
RS		2			RSウイルス感染症(1)*、気管支肺炎(1)**
エコロ 6	3	3	2		無菌性髄膜炎(1)、急性膵炎(2)、RSウイルス感染症(1)*、細気管支炎(1)、気管支肺炎(1)**、発疹症(2)
エンテロ 71		2		1	無菌性髄膜炎(1)、手足口病(2)
コクサッキーB群 2		1			感染性胃腸炎(1)
ライノ		7	1		感染性胃腸炎(3)、気管支肺炎(1)、気管支炎(1)、発疹症・気管支炎(1)、RSウイルス感染症(1)、インフルエンザ様疾患(1)
ノロ GII.4		2			感染性胃腸炎(2)
バルボ B19				2	遺伝性球状赤血球症・溶血発作(2)

*、**重複感染

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報

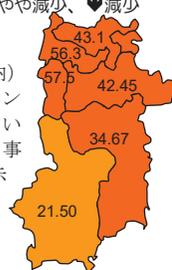
◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	47.81	(41.61)	↑↑	↑↑	↑	
2	感染性胃腸炎	5.71	(5.97)	→	↗	→	
3	A群溶連菌咽頭炎	2.09	(2.09)	↑	↑	↗	
4	RSウイルス感染症	0.68	(0.38)	↓	→	↓	
5	突発性発しん	0.38	(0.32)	→	→	↘	

発生状況: **大流行** 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

インフルエンザの流行警報発令中です。北部地域(奈良市保健所及び郡山保健所管内)では、前週より増加しています。小児科外来情報にもあるように、今年のインフルエンザはA型とB型が混合して流行しており、一度かかっても再度別の型に感染してしまいます。感染しても症状が軽く、インフルエンザと気づかず生活し感染を広げてしまう事も多いです。体調不良を感じたら、無理せず、早めに医療機関に受診し、医師の指示を守るようにしてください。また、咳エチケットを心がけ、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えるなど、感染予防・感染症の拡大予防を心がけてください。



◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

1月中旬前後からインフルエンザの流行が再び大流行しています。今シーズンの特徴は、昨年12月後半からA型とB型の同時流行です。1月に入ってからは1週間以上の間隔を置いてAとBの2回罹患者がみられています。B型では成人で全身倦怠感と軽度の咳や鼻汁のみで全く熱の無い方も迅速検査陽性の方をよくみかけます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが大流行中。A型・B型混在。ほぼ同程度の割合。同月中に両方に罹患例もある。比較的軽症傾向。無熱、微熱のみ、一旦解熱例などでも陽性例がある。同家族内同一日検査で兄B型、妹2人A型の例があった。

他に感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎、水痘があった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザ流行中。A型よりB型優位。タミフル、ラビアクタに不応のB型がみられ、自然経過としても発熱が1週間近く続いている。吸入抗インフルエンザ薬は効いている。RSウイルスも多く入院例もある。胃腸炎は下痢中心でノロウイルス様ではない。

インフルエンザ警報発令中です!

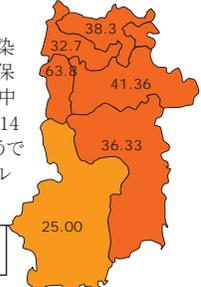
◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	41.61	(22.46)	↑↑	↑↑	↑↑	
2	感染性胃腸炎	5.97	(4.32)	↗	↗	→	
3	A群溶連菌咽頭炎	2.09	(0.82)	↗	→	↘	
4	RSウイルス感染症	0.38	(0.76)	↓	↓	↓	
5	突発性発しん	0.32	(0.38)	→	→	↑↑	

発生状況: **大流行** 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

インフルエンザの定点当たり報告数が警報基準値「30」を越え警報発令となりました。感染拡大の防止のために①手洗いの励行、②咳エチケット(マスク)を心がけてください。中和保健所の西部地域(旧葛城保健所管内)が最も多い状況が続いており、奈良市保健所管内、中和保健所の東部地域(旧桜井保健所管内)では、前週より倍以上に急増しています。7~14歳の年齢層が約3倍と著しく増加しており、小学校や中学校で特に流行が拡大しているようです。今年は、A型とB型のウイルスが混合して流行しており、一度感染しても型違いのウイルスに再び感染することもあります。予防対策に努めましょう。



咳エチケット

くしゃみや咳が出るときは、飛沫にウイルスを含んでいるかもしれませんので、次のような咳エチケットを心がけましょう。

◆マスクを着用する

鼻と口の両方も確実に覆う → ゴムひもを耳にかけろ → 隙間がないよう鼻まで覆う

◆顔をそらす

他の人から顔をそらす

◆口と鼻を覆う

ティッシュなどで口と鼻を覆う → ティッシュはすぐにゴミ箱に

◆こまめに手洗い

石けんを手に洗う

くしゃみや咳が出ている間はマスクを着用し、使用後のマスクは放置せず、ごみ箱に捨てましょう。マスクを着用していても、鼻の部分に隙間があったり、あごの部分が出たりしていると、効果がありません。鼻と口の両方を確実に覆い、正しい方法で着用しましょう。

くしゃみや咳をするときは、ティッシュなどで口と鼻を覆います。使ったティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。

くしゃみや咳の飛沫は、1~2メートル飛ぶと言われてます。くしゃみや咳をするときは、他の人にかからないようにしましょう。

くしゃみや咳などを押さえた手から、ドアノブなど周囲の物にウイルスを付着させたりしないために、インフルエンザに感染した人もこまめな手洗いを心がけましょう。

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	34.13	(45.37)	➡	➡	➡	➡
2	感染性胃腸炎	4.91	(4.68)	➡	➡	➡	➡
3	A群溶連菌咽頭炎	1.88	(1.97)	➡	➡	➡	➡
4	RSウイルス感染症	0.41	(0.41)	⬇	⬇	⬇	➡
4	突発性発しん	0.41	(0.26)	➡	➡	↑	⬇

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**➡やや増加**、**➡横ばい**、**⬇やや減少**、**⬇減少**

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザが流行警報発令中です。依然として警報基準値の「30」は超えており、注意が必要です。こまめな手洗い、咳エチケットを心がけましょう。今シーズンは、A型ウイルス、B型ウイルスが混合して流行しており、軽症であることが多いようです。軽症だとインフルエンザと気づかず、周囲へ拡大させてしまいます。周囲には、乳幼児・高齢者など、重症化しやすい人や家族が居るはず。この時期の「無理してがんばる」は周囲への迷惑ですので、体調不良を感じたら早めに受診し、医師の指示を守ってください。なお、抗インフルエンザ薬服用後、すぐ解熱してもウイルスを排泄しています。医師の指示どおり、5日程度は外出は控えてください。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

大流行のインフルエンザは2月に入ってから徐々に減少に転じています。B型が大半となり、あまり高熱も出ず咳も少なく、初期に頭痛や嘔気、腹痛を訴える方が多い印象です。感染性胃腸炎は、相変わらず少ないですが、嘔吐や嘔気が強くないと一過性の発熱もありインフルエンザとの鑑別が難しい場合もあります。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザの急増により外来数は増加。
 A型、B型混在、ややB型優位。重症経過例はなかった。軽度の鼻汁程度で無熱や、37度代の微熱の例でも陽性例がある。同時にA、B両方陽性の例があった。
 感染性胃腸炎も流行中。今冬ロタは見られずワクチンの効果とも思われる。
 その他の感染症は少ない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行が続く。B型が減少傾向、A型の増加傾向がみられる。タミフル不応のB型インフルエンザは咳が強く、ウイルス性肺炎を併発している場合もある。
 胃腸炎もやや増加、症状遷延するも重症感はない。
 アデノウイルス咽頭炎や溶連菌感染症も散見される。

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(平成30年1月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	45.37	(47.81)	↑	↑	↑	↑
2	感染性胃腸炎	4.68	(5.71)	➡	➡	➡	➡
3	A群溶連菌咽頭炎	1.97	(2.09)	➡	➡	➡	↑↑
4	RSウイルス感染症	0.41	(0.68)	⬇	⬇	⬇	⬇
5	突発性発しん	0.26	(0.38)	➡	⬇	↑	⬇

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**➡やや増加**、**➡横ばい**、**⬇やや減少**、**⬇減少**

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの流行警報発令中です。県内の全ての地域で警報開始基準値「30」を超えています。過去10年で最も患者数が多い状態が続いています。小児では5～6歳が最も多く、成人では40代が多くなっています。今後流行が拡大し、免疫力が弱い乳幼児や高齢者が感染すると、脳炎や肺炎を起こすなど重症化する事もありますので、乳幼児や高齢者のいる環境へは、持ち込まないようにすることが最重要となります。感染している方は近寄らないようにする事、感染していない方も持ち込まないように人混みを通ったら手洗いを心がけるなど、感染拡大予防を心がけてください。インフルエンザにはアルコール消毒剤が有効です。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成30年1月) ◆

*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
インフルエンザ AH1pdm09	1	2	2		インフルエンザ(5)
インフルエンザ AH3	3				インフルエンザ(3)
インフルエンザ B (山形系統)	1	2	1		インフルエンザ(2)、インフルエンザ疑(2)
RS		1			肺炎(1)
ライノ	2	1	1		手足口病・無菌性髄膜炎(1)*、無菌性髄膜炎(1)、発疹症(1)、感染性胃腸炎(1)
エコー 9		1			発疹症(1)
エンテロ 71	1				手足口病・無菌性髄膜炎(1)*
コクサッキー A10	1				手足口病(1)
ノロ GII.4		7			感染性胃腸炎(7)
A群ロタ G3			1		感染性胃腸炎(1)
A群ロタ G9		1			感染性胃腸炎(1)
単純ヘルペス 1		1			ヘルペス口内炎(1)
水痘・帯状疱疹		1			水痘疑い(1)
サイトメガロ		1			ギランバレー症候群(1)**
ヒトヘルペス 6B		1			ギランバレー症候群(1)**

*、** 重複感染

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	20.78	(26.65)	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	5.65	(3.56)	→	→	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	1.97	(1.59)	→	→	→	↗
4	RSウイルス感染症	0.59	(0.47)	↗	↑	→	↓
5	突発性発しん	0.53	(0.09)	↑	↑	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザ警報発令中

インフルエンザは、徐々に減少していますが、定点当たり報告数が警報終息基準値「10」を下回るまでは、警報は継続します。引き続き、手洗いの励行・咳エチケットを心がけ、感染予防に努めましょう。
 A群溶連菌咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)が、中和保健所の西部地域(旧葛城保健所管内)で報告が多くなっています。A群溶連菌咽頭炎は、抗菌薬投与により治療できます。医師の指示を守り、きちんと服薬しましょう。感染を予防するには、手洗い・うがいを励行すること、患者との濃厚接触を避けること、またタオルなどの共有を避けることが大切です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザの流行は徐々に減少し、1月末に比し半減しています。B型が多いですがA型もよく検出されます。保育園の幼児で、RSウイルス感染症と類似した4～5日間38度以上の発熱とひどい咳のヒメタニューモウイルス感染症が流行しています。感染性胃腸炎は増加傾向がみられません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは前週あたりからピークを過ぎ減少に転じた。今季は、無熱の例や感冒程度の例が多い傾向で、重症経過の例はなかった。
 感染性胃腸炎が持続、軽症経過例が多く輸液を要する例はなかった。
 咳嗽の多い例があるがRS,hMPV陽性例はなかった。その他、A群溶連菌感染症が少し。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行は続いているが、ピークは過ぎた感あり。B型が減少し、A型B型同数程度になってきた。
 下痢や嘔吐の胃腸炎が増加、軽症に経過するも症状は遷延している。また発疹を伴うウイルス性咽頭炎が散見された。

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 3月1日～3月7日は 子ども予防接種週間 です

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	26.65	(34.13)	↓	↓	↓	
2	感染性胃腸炎	3.56	(4.91)	↓	↓	→	
3	A群溶連菌咽頭炎	1.59	(1.88)	→	→	→	
4	RSウイルス感染症	0.47	(0.41)	→	→	↑↑	
5	咽頭結膜熱	0.38	(0.24)	↑	↑	↓	

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザ警報発令中

インフルエンザの報告数は徐々に減少していますが、定点当たり報告数が警報終息基準値「10」を下回るまで警報発令状態は続きます。保健研究センターの検査では、A型のAH3(香港型)ウイルス、AH1pdm09ウイルス、B型の山形系統ウイルスが検出されており、3種類のインフルエンザウイルスが同時に流行しています。ウイルスの種類が違っても何度も感染することがあります。免疫力を低下させないよう、バランスのとれた食事や十分な睡眠(休養)をとり、規則正しい生活を心がけましょう。さらにこまめな手洗い・咳エチケット等の感染拡大予防も心がけてください。

咽頭結膜熱(プール熱)の報告も増えてきました。また、春先の感染性胃腸炎として代表的なロタウイルス胃腸炎も流行する時期になっています。正しい手洗いをを行い、タオルの共用を避けるなど、基本的な感染予防対策を励行しましょう。

3月1日(木)～3月7日(水)は
子ども予防接種週間
 4月からの入園・入学に備えて、
 必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう

県内協力医療機関 日本医師会《 <http://dl.med.or.jp/dl-med/vaccine/list/v29list29.pdf> 》

- 接種できるワクチンの種類は各医療機関にお尋ねください。
- 期間内でも夜間、土日曜日、休日等で予防接種を実施していない日時もあります。
- 接種希望者は必ず各医療機関にお問い合わせのうえ、予約してください。

今週の概要

- 小児科外来情報
- 2月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	9.61	(14.46)	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	5.41	(5.00)	→	→	↗	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.18	(2.00)	→	↗	→	↗
4	突発性発しん	0.41	(0.44)	→	↗	→	→
5	咽頭結膜熱	0.29	(0.15)	→	↓	↗	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告は、先週に続き減少していますが、未だ定点当たり報告数が9.61と高い値になっています。手洗いや咳エチケットを心がけ、感染予防に努めましょう。

感染性胃腸炎の報告数は横ばいです。感染性胃腸炎の原因病原体は、数多くありますが、春先にはロタウイルスによる感染性胃腸炎が増加します。ロタウイルスの感染経路は、主にヒトとヒトの間で起こる糞口感染が主なルートとされています。子どもから親へと感染が広がることもあるため、おむつは適切に処理し、感染を拡げないよう注意して下さい。

A群溶連菌咽頭炎の報告数は横ばいです。A群溶連菌咽頭炎は、患者との接触を介して感染するため、家庭や学校など集団での感染もみられます。患者との濃厚接触は避けるようにし、基本的な予防法の手洗い、うがいを励行しましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザの流行は減少していますが、ここ2週間は下げ止まっています。中学生以上成人の方の罹患が多い状況です。

高熱とひどい咳のヒメタニューモウイルス感染症が保育園と幼稚園で流行しています。嘔吐と下痢、腹痛の感染性胃腸炎は多くはないが年齢に関係なくみられます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは減少したがまだ散見される。A型が主。
 感染性胃腸炎も小流行中。ロタを疑い検査を要する例は激減した。
 乳児で咳嗽の激しい例が続きhMP陽性で入院例もあった。
 他にA群溶連菌感染症が少し。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザは減少。感染性胃腸炎が増加、嘔吐や下痢症状が中心で比較的軽症に経過している。溶連菌による咽頭炎も多い。



インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(2月)
- 1月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	14.46	(20.78)	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	5.00	(5.65)	→	→	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.00	(1.97)	→	→	→	↓
4	突発性発しん	0.44	(0.53)	↗	↑	→	→
5	RSウイルス感染症	0.21	(0.59)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザ警報発令中
 インフルエンザは、徐々に減少していますが、定点当たり報告数が警報終息基準値「10」を下回るまでは、警報は継続します。今年は例年より報告数が多く、それに比例してインフルエンザによる急性脳症・脳炎の報告も多くなっており、重症例や死亡例も発生しています。引き続き、手洗いの励行・咳エチケットを心がけ、感染予防に努めてください。

春に流行するロタウイルス胃腸炎の報告が増えてきました。主に、乳児・幼児が感染し、特に乳児が感染すると入院が必要となる事が多いため、ワクチン接種が推奨されています。また、近年は流行するウイルスの血清型に変化が見られ、学童や成人の報告も増えています。正しい手洗いをを行い、タオルの共用をしないなど、感染予防対策を心がけてください。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成30年2月) ◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
EB	1		1		発疹症(2)
RS	1	1			咽頭炎(1)、肺炎(1)
アデノ	1	1			扁桃炎(1)
アデノ	2	1			咽頭炎(1)
インフルエンザ	AH1pdm	2	1	1	インフルエンザ(4)
インフルエンザ	AH3	2			インフルエンザ(2)
インフルエンザ	B(Yamagata)	4	2		インフルエンザ(5)、RSウイルス感染症(1)
コクサッキー	B2	1			無菌性髄膜炎(1)
コクサッキー	B5			1	感染性胃腸炎(1)
サイトメガロ		1			発疹症(1)
ノロ	GII.4	3			感染性胃腸炎(3)
ヒメタニューモ		1			気管支肺炎(1)
ライノ		3			インフルエンザ疑(1)、細気管支炎(1)、上気道炎(1)

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.06	(5.88)	➡	➡	➡	➡
2	インフルエンザ	2.80	(5.98)	⬇	⬇	⬇	⬇
3	A群溶連菌咽頭炎	1.62	(1.68)	➡	➡	➡	⬆
4	RSウイルス感染症	0.56	(0.26)	⬆	⬆	⬆	⬆
5	突発性発しん	0.44	(0.26)	↗	➡	↗	➡

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **⬆**急増、**⬆**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**➡**やや減少、**⬇**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の報告数は、横ばいです。保健研究センターでは、ロタウイルスの検出が増加してきました。インフルエンザの報告数は、今週も減少しています。定点当たり報告数が「1.0」を下回るまで油断せず、予防対策に努めましょう。
 RSウイルス感染症の報告が、郡山保健所管内と中和保健所管内からありました。患者はすべて4歳以下です。手洗いをこまめに行い、タオルやおもちゃの共用は避けましょう。また、成人が感染することもあるため注意してください。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザの流行はほぼ終焉したようです。流行の後半はB型が主体でしたが、最近ではA型もあり、中学生以上が多い状態です。
 2月頃より保育園児で流行がみられるヒトメタニューモウイルスによる気管支炎は大流行にはなっていませんが持続しています。4月よりヒトメタニューモウイルス迅速検査の保険検査要件が緩和されます。
 感染性胃腸炎は増加していません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは激減、ほぼ終息に近い。
 乳児でhMPV肺炎が流行中、入院例もある。発熱、咳嗽、喘鳴が強い。
 同朋年長児に咳嗽の感冒様症状を認める例が多い。
 感染性胃腸炎も流行中、ノロウイルス陽性例が散発。
 他にA群溶血性連鎖球菌感染症が散発、伝染性紅斑があった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザは減少を続けている。
 感染性胃腸炎や溶連菌感染症の流行は持続している。
 手足口病、ヘルパンギーナ、アデノウイルス咽頭炎や胃腸炎がみられました。



今週の概要

- ヒトメタニューモウイルス感染症
- 保健研究センター3月だより ノロウイルスGII.P17-GII.17の検出状況について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	5.98	(9.61)	⬇	⬇	⬇	⬇
2	感染性胃腸炎	5.88	(5.41)	↗	➡	↗	⬆
3	A群溶連菌咽頭炎	1.68	(2.18)	➡	➡	➡	➡
4	咽頭結膜熱	0.29	(0.29)	➡	➡	⬆	⬆
5	RSウイルス感染症	0.26	(0.15)	⬆	⬆	➡	⬆

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **⬆**急増、**⬆**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**➡**やや減少、**⬇**減少

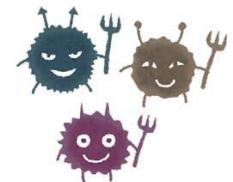
◆県内概況◆

今週もインフルエンザの報告数は、減少しています。定点当たり報告数が1.0を下回るまで注意が必要です。手洗いや咳エチケットを継続して行いましょう。
 A群溶連菌咽頭炎の報告数は、中和保健所管内西部地域で多い状況が続いています。発熱、のどの痛み、倦怠感がある場合は早めに医療機関を受診するようにして下さい。
 春休みに入ると、人がたくさん集まる場所へ出かける機会も増えると思います。帰宅した際には、必ず石けんと流水を用いた手洗いなど基本的な予防法を行いましょう。

◆ヒトメタニューモウイルス感染症◆

ヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症は、RSウイルス感染症と類似した臨床像を示す感染症です。春から夏にかけて流行がみられ、保健研究センターでは小児の呼吸器感染症からhMPVを検出することがあります。小児に多い疾患ですが、成人も感染することがあるため注意が必要です。

- 感染経路 接触感染、飛沫感染
- 症状 主に上気道炎がおこります。
ひどい場合には、下気道炎に進展し、入院を要することもあります。
- 好発年齢 生後6ヶ月頃から感染が始まり、遅くとも10歳までに一度感染します。
一度の感染では十分な免疫は獲得できず、乳幼児期は再感染を繰り返すと考えられています。
- 潜伏期間 4～6日程度
- ウイルス排泄期間 7～14日程度
- 流行時期 主に3月～6月
- 予防方法 患者との濃厚接触を避け、基本的な予防法の手洗い、うがいを行いましょう



今週の概要

- 小児科外来情報
- 3 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.15	(5.03)	➡	➡	➡	↓
2	インフルエンザ	1.30	(2.13)	↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.06	(1.88)	↘	↘	↓	↓
4	咽頭結膜熱	0.47	(0.15)	↑	↗	↑↑	↓
5	突発性発しん	0.41	(0.38)	➡	➡	➡	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➡横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数は今週も減少していますが、定点あたり報告数が 1.0 を下回るまでは、注意が必要です。あと少し、手洗いの励行・咳エチケットを心がけ、感染予防に努めてください。
 咽頭結膜熱の報告数は、中和保健所管内西部地域で増加しています。患者はすべて 5 歳以下です。咽頭結膜熱は例年、夏にかけて流行します。主な症状は、発熱、結膜炎、咽頭炎です。飛沫感染や手指を介した接触感染で拡がります。おもちゃやタオルの共用は避け、基本的な感染予防対策(手洗い・うがい)を心がけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

4 月になりインフルエンザは一挙になくなりました。替わって嘔吐、腹痛、発熱と下痢の感染性胃腸炎が増加傾向にあります。学校と幼稚園が春休み中なので、保育園児でみられます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは見られなくなりました。
 乳児でhMPV感染が流行、紹介入院例もある。
 感染性胃腸炎も多くないが流行。嘔吐を伴いノロ様、軽症経過。
 他にA群溶連菌感染症が見られた。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザは散発、症状も軽症化している。
 胃腸炎は増加しているが、重症例はみられない。遷延する咳嗽でヒトメタニューモウイルス陽性例が散見されている。
 溶連菌感染症はあいかわらず流行が続いている。



今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(3月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.03	(5.06)	➡	➡	➡	↘
2	インフルエンザ	2.13	(2.80)	↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.88	(1.62)	➡	↗	↘	↗
4	突発性発しん	0.38	(0.44)	➡	↑	↓	↓
5	RSウイルス感染症	0.29	(0.56)	➡	↓	↗	➡

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➡横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告数はほぼ横ばいですが、春にはロタウイルス胃腸炎が流行するので注意が必要です。排便後やおむつ交換後には、石けんを用いてしっかりと手を洗いましょう。また、インフルエンザの報告数は減少していますが、定点あたり報告数が 1.0 を下回るまでは油断できません。マスクの着用、こまめな手洗い、換気及び十分な休息を心がけるようにしてください。A群溶連菌咽頭炎の報告数はわずかに増加しています。喉の痛みを感じたら、早めに医療機関を受診するようにしましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 30 年 3 月) ◆

*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
A群ロタ G1		1			感染性胃腸炎(1)
A群ロタ G2		3			感染性胃腸炎(3)
A群ロタ G3		2			感染性胃腸炎(2)
A群ロタ G9		5			感染性胃腸炎(5)
インフルエンザ AH1pdm	1	3			インフルエンザ(4)
インフルエンザ AH3	5	5			インフルエンザ(10)
インフルエンザ B(Yamagata)	4	8	3		インフルエンザ(15)
コクサッキー B2		1			感染性胃腸炎(1)
サイトメガロ	1	2			発疹性疾患(1)、ヘルパンギーナ(1)* 急性扁桃炎・川崎病疑い(1)
サボ		1			感染性胃腸炎(1)
ノロ GII.2		1			感染性胃腸炎(1)
パラインフル 1	1				上気道炎(1)
ヘルペス 6B		3			ヘルパンギーナ(1)* 発疹症・上気道炎(1) 気管支炎・突発性発疹(1)
ヘルペス 7		1			発疹症(1)
ヒトメタニューモ	1	4			気管支炎(1)、鼻咽頭炎(1) 急性上気道炎(1)、 ヒトメタニューモウイルス感染症(2)

*重複感染

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.53	(3.94)	➔	➔	➔	➡
2	A群溶連菌咽頭炎	2.15	(1.62)	➔	➔	↑	➡
3	咽頭結膜熱	0.44	(0.15)	↑	↑	↑	↓
4	伝染性紅斑	0.41	(0.06)	↑↑	↑↑	↑↑	↓
5	突発性発しん	0.38	(0.32)	➔	➔	↓	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➔横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

A群溶連菌咽頭炎の報告数が、先週に引き続き増加しています。また、咽頭結膜熱の報告数も増加しています。予防としては、感染者との密接な接触を避けること、うがいや手指の消毒を励行することが大切です。伝染性紅斑(リンゴまっぺ病)の報告数が、県北部と中部で増加しています。この感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常や流産があります。不顕性感染(感染しているが臨床症状を示さないこと)している人からの感染があるため予防は難しいですが、手洗い・うがいを励行し予防に努めましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザはすっかり無くなり、嘔吐、腹痛、発熱と下痢の感染性胃腸炎が少しあるのみです。花粉症は相変わらずですが、気管支喘息方が増えています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは見られなくなった。
 幼児でhMPV 陽性例が続いたが、年長児でも咳嗽の強い例がある。
 現在のシステムではhMPV のピックアップ不可。
 アデノ様の高熱例もあるが短期・軽症。
 感染性胃腸炎が持続。他に A 群溶連菌感染症、水痘、伝染性紅斑が僅か。



次回の週報(第17週)は、平成30年5月8日(火)午後発行いたします。

今週の概要

- ゴールデンウィークに海外へ渡航される皆さまへ！感染症にご注意を！

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.94	(5.15)	➡	➡	➡	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	1.62	(1.06)	➔	➔	➔	➔
3	インフルエンザ	0.89	(1.30)	↓	↓	↓	↓
4	突発性発しん	0.32	(0.41)	➔	➡	➔	↓
5	水痘	0.21	(0.26)	↗	↓	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➔横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

A群溶連菌咽頭炎の報告数は、中和保健所管内西部地域で多い状況が続いています。例年、4月中旬頃から増え始め、6月にピークを迎える疾患です。治療には、抗菌剤が有効です。喉の痛みを感じたら、すぐに医療機関を受診し、検査を受けるようにしましょう。これから暑くなってくると、夏の感染症(咽頭結膜熱や手足口病、ヘルパンギーナ)が増加していきます。また、連休に入ると、人がたくさん集まる場所へ出かける機会も増えると思います。日頃から、基本的な感染症予防対策(手洗い・うがい)を心がけましょう。

ゴールデンウィークに海外へ渡航される皆さまへ！**感染症にご注意を！**

- ◆ 出発前に確認しておきたいこと
 - ☑ 渡航先で流行している感染症について
 - ☑ 渡航先での医療機関情報について
- ◆ 旅行中に注意すべきこと
 - ☑ 生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
 - ☑ 食事は十分に火の通った信頼できるものを食べましょう。
 - ☑ 蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、必要があれば虫よけ剤を使うなどしましょう。
 - ☑ 動物は狂犬病、MERS や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあるので、無暗に触らないようにしましょう。
 - ☑ 薬物やゆきずりの性交渉で感染し、一生の後悔をすることのない行動をとりましょう。
- ◆ 帰国時・帰国後に具合が悪くなった方
 - ☑ 帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、最寄りの検疫所にご相談ください。
 - ☑ 帰国後に症状が出た方は、病院受診の際に渡航歴を必ず話してください。受診方法で分からないときには検疫所または保健所にご相談ください。



◎参考

FORTH/厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/news/2018/04090905.html>
 厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.41	(6.18)	↘	↘	↘	→
2	A群溶連菌咽頭炎	0.79	(2.09)	↘	↘	↘	↘
3	伝染性紅斑	0.32	(0.09)	↑	→	↑	→
4	咽頭結膜熱	0.21	(0.38)	↘	→	↘	→
4	突発性発しん	0.21	(0.68)	↘	↘	↘	↘

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

大型連休を挟み、報告数はほとんどの疾患で減少しています。
 感染性胃腸炎は、年齢を問わず報告がみられます。4月の後半に奈良県保健研究センターで検査を行った集団感染性胃腸炎事例では、ノロウイルスを検出しています。食品は十分に加熱して食べ、手洗いも忘れずに行い、予防に努めて下さい。また嘔吐物等の処理を誤ると、処理する自身に感染する危険性もあり、また周りにも感染を拡げてしまうことがあります。正しい方法で処理を行いましう。
 夏に流行のピークを迎える咽頭結膜熱(プール熱)や手足口病の報告が少数ですがみられます。手洗い、うがいを習慣づけて下さい。
 インフルエンザの報告は、少なくなっていますが続いています。大人から子どもへ感染を拡げないために、咳やくしゃみが出る場合にはマスクを着用するよう心がけましよう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザ A 型が、天理の中学校の子に先々週にありました。その後はありません。GW にかかり、目立った感染症はありません。感染性胃腸炎が少しある位です。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は連休前後は増加。
 インフルエンザ A の感染が再び見られた。
 17週(臨時)で報告の子供4才、3才とその母親、翌日受診のその従兄家族の子供6才、3才、5ヶ月の3名とその母親がインフルエンザ A 陽性、計7名の発症を認めた。連休前に大阪勤務の父親が感冒症状であったが詳細不明。
 その他は感染性胃腸炎が流行。水痘が見られるようになった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヒトメタニューモウイルス感染症の流行が続いている。肺炎合併、低酸素血症例も多い。溶連菌感染症の流行も続いているが、抗生剤の反応はよく腎炎合併もみられていない。
 胃腸炎は大きな流行にはなっていない。夏カゼは徐々に増している。
 麻疹患者の受診はない。



今週の概要

- 小児科外来情報(臨時)
- マダニに注意してください

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.18	(5.53)	↗	→	↑	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	2.09	(2.15)	↗	→	↗	↑
3	突発性発しん	0.68	(0.38)	↑	→	↑↑	↓
4	水痘	0.47	(0.26)	↑	↑↑	↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.38	(0.44)	↗	↗	↗	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告数は、中和保健所管内西部地域で増加しています。調理の前、食事の前、トイレの後など手洗いをこまめに行いましう。
 現在のところ、夏に流行する手足口病やヘルパンギーナの報告数は少数ですが、今後増加してくることが予想されます。石けんと流水を用いた手洗いを習慣づけて下さい。また乳幼児は、おもちゃ等の共用から感染が拡がる可能性があるため、できる限り共用は避けるようにしましう。

◆ 小児科外来情報(臨時) ◆

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザ A の感染が再び見られる。天理地区に多いとの情報。
 また大阪勤務の親が感冒症状であったが本日受診の桜井在住の子供2名がインフルエンザ A 陽性、連休発熱中休日診療所受診するも無治療でおり蔓延も心配。
 高熱が持続しやはり全身倦怠感が強く咳嗽をとまなう。

マダニに注意してください

春から秋にかけて、マダニの活動が活発になります。
 マダニに咬まれると、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱などの病気になることがあります。マダニの生息しているような場所へ出かける時には、咬まれないように注意して下さい。

- ◆対策◆
 - 肌の露出を少なくする
帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等
 - 長袖・長ズボン・登山用スパッツを着用する
シャツの裾はズボンの中、ズボンの裾は靴下か長靴の中へ入れる
 - 足を完全に覆う靴を履く
サンダル等は避ける
 - 明るい色の服を着る(マダニを目視で確認しやすくするため)

マダニ対策、今できること(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html>

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	9.85	(7.62)	↑↑	↑	↑	↗
2	A群溶連菌咽頭炎	3.47	(1.97)	↑↑	↑	↑↑	↘
3	咽頭結膜熱	0.65	(0.85)	↑	↗	↑	↑↑
4	突発性発しん	0.50	(0.65)	→	↗	↘	↑↑
5	伝染性紅斑	0.44	(0.15)	↑	↑↑	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告は、先週より増加しています。下痢や嘔吐の症状がひどい場合には、脱水症状を起こすことがあります。また高齢者は、嘔吐物を誤嚥してしまうこともあるため、体調の変化に注意が必要です。保健研究センターでは、胃腸炎症状のある中学生から A 群ロタウイルスを検出しています。ロタウイルス感染症は、乳幼児期にかかりやすい感染症ですが、その他の年齢層でも感染することがあります。手洗いは、指輪や時計ははずし、石けんで30秒以上もみ洗いにしましょう。

A 群溶血性レンサ球菌感染症の報告が増加しています。特に中和保健所管内西部地域は、定点当たり報告数が警報開始基準値の「8」を超えています。手洗い、うがいを励行して下さい。咽頭痛がある場合は、早めに医療機関を受診するようにしましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

夏のように暑くなったり寒くなったり、不安定な天気が続いていますが、嘔吐、腹痛、発熱、下痢の感染性胃腸炎が園児で増えていますが、それに伴い家族が感染しています。水痘も増えてきている地区があります。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

気候の不順で感冒症状の例が増加。インフルエンザはその後見られなくなりほぼ終焉の方向と思われる。感染性胃腸炎が流行中。原因が特定された例はなかった。その他 A 群溶血性連鎖球菌感染症、水痘が僅か。子供が伝染性紅斑の例でその母親が全身に発赤を認めた例があったが3日ほどで消退。麻疹は臨床的に否定的。詳細は不明。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヒトメタニューモウイルス感染症は減少してきた。溶連菌感染症、アデノウイルス感染症(結膜炎、咽頭炎)の流行は続いている。感染性胃腸炎は増加、外来対応できる軽症が大部分だが、ノロウイルス例では感染力が強い。沖縄修学旅行で体調不良を訴えた中学生はいたが、麻疹ではなかった。

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(4月)
- 4月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	7.62	(3.41)	↑	↑	↗	↑
2	A群溶連菌咽頭炎	1.97	(0.79)	↗	→	↑	→
3	咽頭結膜熱	0.85	(0.21)	↑↑	↑↑	↑	↑↑
4	水痘	0.74	(0.12)	↑↑	↑↑	↑	↑↑
5	突発性発しん	0.65	(0.21)	↑	↑	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱の報告は増加しています。報告数の6割を1歳児が占めています。咽頭結膜熱は、発熱、咽頭痛、結膜炎を主症状とする疾患で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。手洗い、うがいを心がけましょう。また、タオルの共用は避けるようにして下さい。

水痘(みずぼうそう)の報告数は増加しています。特に奈良市保健所管内、中和保健所管内東部地域で増えています。感染力は非常に強く、発疹出現の1～2日前から出現後4～5日あるいは痂皮化する(かさぶたになる)まで感染力があるとされています。有効な予防法は、ワクチン接種です。また感染者との接触を避けることも重要です。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成30年4月) ◆

*ウイルス分離同日での集計結果
 *重複感染

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
A群ロタ G1		1			感染性胃腸炎(1)
A群ロタ G2		1			感染性胃腸炎(1)
A群ロタ G3		4			感染性胃腸炎(3)、ロタウイルス腸炎(1)
A群ロタ G8	1	6			ロタウイルス腸炎(7)
A群ロタ G9		1			ロタウイルス腸炎(1)
ノロ G II.2		1			感染性胃腸炎(1)
EB		1			発疹症(1)
サイトメガロ		2			発疹症(1)、A群溶連菌咽頭炎・急性脳症・急性中耳炎(1)
アデノ 1		1			感染性胃腸炎(1)
アデノ 2		1			手足口病(1)
アデノ 3		1			感染性胃腸炎(1)
アデノ 40/41		1			感染性胃腸炎(1)
インフルエンザ AH3	2	3			インフルエンザ(5)
インフルエンザ B (山形系統)	4	5			インフルエンザ(9)
ヒトメタニューモ		2			ヒトメタニューモウイルス気管支炎(1)、喘息様気管支炎(1)
ライノ		4			肺炎(1)、気管支炎(1)、咽頭炎(1)、不明(1)

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	9.59	(10.41)	↗	↗	↗	→
2	A群溶連菌咽頭炎	2.50	(2.71)	→	↗	→	↑
3	咽頭結膜熱	0.76	(0.79)	↗	↗	↗	↗
4	ヘルパンギーナ	0.50	(0.35)	↑↑↑	↓	↑↑↑	↑↑↑
5	突発性発しん	0.35	(0.47)	↓	↓	→	↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎が引き続き、流行しています。県内ではノロウイルスやA群ロタウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生が例年よりも多くみられます。

A群溶連菌咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)は、他の地域に比べて中和保健所管内西部地域で報告数が多い状況です。春から初夏にかけての時期に報告数のピークがあります。

夏風邪のひとつであるヘルパンギーナが、中和保健所管内東部地域と吉野保健所管内で報告数が多くなっています。口腔内の痛みから、食事や水分補給が十分にできず、脱水症状になることもあるため、注意が必要です。

基本的な感染症予防対策(手洗い・うがい・タオルの共用を避ける等)を行い、感染拡大を防止しましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数は感染症がほとんど無いので少ない。腹痛、嘔吐、発熱、下痢が順番に出現するウイルス性の感染性胃腸炎が保育園と幼稚園児であり、成人にも広がっています。アデノウイルスが便で陽性の子もいます。溶連菌咽頭炎も多くありません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。
 一日程度の発熱の軽症の感冒例が多い。咳嗽例は少なくなった。
 感染性胃腸炎が流行中。嘔吐が主のノロ様であるが検査実施例は少なく確定診断例はなかった。
 発熱・下痢の感染性胃腸炎様症状で受診の3歳児で腸重積を診断、紹介入院例があった。
 2週間前に前腕のレース状発疹で母親にも発疹を認め伝染性紅斑と診断した5歳児で、再び典型的レース状発疹で伝染性紅斑と診断せざるを得ない例があった。
 その他流行性耳下腺炎がわずか。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヒトメタニューモウイルス感染症はやや減少してきた。アデノウイルス感染症は増多、プール熱のみならず結膜症状のみ、下痢のみの例も多い。
 またヘルパンギーナも増加してきている。水痘、伝染性紅斑も散見される。

今週の概要

- HIV 検査普及週間

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	10.41	(9.85)	↑	↑	↑	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	2.71	(3.47)	↗	→	↗	↑
3	咽頭結膜熱	0.79	(0.65)	↑	↗	↑	→
4	水痘	0.59	(0.21)	↑	↑	→	↓
5	突発性発しん	0.47	(0.50)	→	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の報告は増加しています。ノロウイルスが原因の場合は、症状が回復しても長期間ウイルスが便中に排泄されます。年齢によって多少差はありますが、小児では3～4週間以上、成人では2～3週間以上の長期にわたりウイルスが排泄されていたという報告もあります。症状がなくなった後も、手洗いをこまめに行うなど感染を拡げないように注意しましょう。また便だけでなく、吐物からも感染が広がる可能性があります。吐物も適切な方法で処理を行って下さい。嘔吐した場合は、うがいを正しい口の中に吐物が残らないようにすることも大切です。

咽頭結膜熱をはじめ、手足口病やヘルパンギーナなど夏風邪の報告数が増えてきています。手洗い、うがい、タオル・おもちゃの共用は避けるなど、すぐにできる予防対策を行いましょう。

6月1日から7日は、HIV 検査普及週間

◎HIV 感染症は、予防、早期発見、早期治療が大切です。

○エイズ予防情報ネット (API-Net)
<http://api-net.jfap.or.jp/index.html>

○エイズ検査相談マップ
<https://www.hivkensa.com/>

○HIV 検査情報サーチ
<http://api-net.jfap.or.jp/prg/search/main.aspx?lic=0&ken=01&=133&y=13>

○HIV/エイズ予防対策
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/aids/index.html



今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	7.56	(7.47)	➡	↘	➡	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	2.56	(2.82)	➡	➡	➡	↘
3	咽頭結膜熱	0.74	(0.88)	➡	➡	↘	↓
3	ヘルパンギーナ	0.74	(0.21)	↑↑↑	↑↑↑	↑	↑↑↑
5	水痘	0.71	(0.26)	↑	↑	➡	↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➡横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

ヘルパンギーナの報告が増加しています。特に中和保健所管内東部地域からの報告が多い状況です。1、2歳の報告が多くなっています。高熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の潰瘍を特徴とした急性ウイルス性感染症です。乳幼児は口腔内の痛みから、水も飲めなくなり脱水症状を呈することもあるので注意が必要です。感染性胃腸炎の報告が、中和保健所管内西部地域で大きく増えています。調理を行う前、食事の前、トイレに行った後、下痢等の患者の汚物処理やオムツ交換等を行った後はしっかりと手を洗きましょう。すべての感染症に有効な予防方法は「手洗い」です。こまめに正しい手洗いを心がけましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数は少ない状態が続いています。腹痛、嘔吐、発熱と下痢の感染性胃腸炎は流行にはなっていませんがよくみられます。そろそろ夏かぜの手足口病とヘルパンギーナが保育園児で出てきました。手足口病では熱があまりなく、手掌と足底の密集した発疹が特徴的で、ヘルパンギーナは例年通りの高熱と口内炎です。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。
 夏風邪が増加。アデノ様高熱例が多い。A群溶連菌感染症が多い。
 感染性胃腸炎が流行中。嘔吐が主でノロ様であるがキット陽性例は少ない。血便例もあるが起炎菌が特定された例はなかった
 伝染性紅斑、手足口病が見られた。ヘルパンギーナ見られ始めた。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヒトメタニューモウイルス感染症の流行は続いている。高熱も5日～1週間続く例も多い。
 アデノウイルス、手足口病、ヘルパンギーナの夏かぜも増加している。下痢中心の胃腸炎も増えている。

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(5月)
- 5月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	7.47	(9.59)	➡	➡	➡	➡
2	A群溶連菌咽頭炎	2.82	(2.50)	↗	↗	➡	↘
3	咽頭結膜熱	0.88	(0.76)	↗	↑	➡	↑
4	突発性発しん	0.65	(0.35)	↗	↘	↑↑	↓
5	手足口病	0.32	(0.21)	↗	↑	➡	➡

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➡横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶連菌咽頭炎は、中和保健所管内西部地域(旧葛城保健所管内)で多くなっています。2～5歳の報告が多いです。抗菌薬により治療が可能ですので、医師の指示を守りましょう。手洗い、うがいなどの一般的な予防を励行することが大切です。
 子どもの夏かぜのひとつである咽頭結膜熱や手足口病の報告が増えています。咽頭結膜熱は、プールの水を介して目の結膜から感染することもあるため、プール熱とも呼ばれます。発熱、のどの痛みや結膜充血が起こります。咽頭結膜熱も手足口病もウイルスが原因とされます。治った後もしばらくは便中にウイルスが排泄されるため、トイレの後やおむつ交換後は、しっかりと手洗いをしてください。また、タオル・おもちゃ等の共有は避けるようにしましょう。

◆病原体(ウイルス)検出情報(平成30年5月)◆

*ウイルス分離同日での集計結果
 *重複感染

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
サボ		2			感染性胃腸炎(2)
A群ロタ G1		2			感染性胃腸炎(2)
A群ロタ G2		2			感染性胃腸炎(2)
A群ロタ G3	1	4			感染性胃腸炎(5)
A群ロタ G9		2			感染性胃腸炎(2)
ムンプス B		1			無菌性髄膜炎(1)
EB		1			反応性関節炎疑い(1)
サイトメガロ		2			急性脳症(1)、発疹症(1)※
ノロ GI.7		1			感染性胃腸炎(1)
ノロ GI.4		1			感染性胃腸炎(1)
ヘルペス 6B		3			急性脳症(1)、発疹症(2)※
ヘルペス 7			1		発疹症(1)
ヒトメタニューモ		1			気管支炎(1)
ライノ	1	3			急性扁桃炎(1)、気管支炎(2)、ウイルス性肺炎(1)

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題「夏に注意したい！感染症！」

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.21	(5.88)	↓	↓	↓	↗
2	A群溶連菌咽頭炎	2.71	(2.09)	→	→	→	↑
3	ヘルパンギーナ	1.26	(0.76)	↑	↑↑	↑	↓
4	手足口病	0.91	(0.50)	↑	↑↑	↑	↗
5	咽頭結膜熱	0.85	(0.53)	→	↓	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

夏に流行のピークを迎えるヘルパンギーナと手足口病の報告数が増加しています。ともに患者年齢は、3歳以下で7割以上を占めています。また、両疾患ともウイルス性感染症で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。流水と石けんによる手洗い、うがいを行い、感染者との密接な接触は避けましょう。
 A群溶連菌咽頭炎は、中和保健所管内西部地域で、定点当たり報告数が6.33と高くなっています。咽頭痛がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。治療には抗生物質が有効です。
 夏番、人混みの中へ出かける機会も多くなるかと思います。日頃から、基本的な感染症対策(手洗い・うがい)に努めましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数は多くは無いが、色んな感染症が出てきています。
 感染性胃腸炎はよくみられています。細菌性とウイルス性が半々です。咽頭痛と発熱の溶連菌咽頭炎が増えてきました。4才以上の園児によくみられます。アデノ、ヘルパンギーナ、手足口病など夏かぜも徐々に増えてきました。今年の手足口病の発疹は粟粒大と小さく水疱も目立たない子が多いようです。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。短期高熱の夏かぜが多い。アデノ様であるがキットで陽性を確認した例は多くない。嘔吐を主とするノロウイルス様の感染性腸炎が流行、細菌性を疑う例は少なかった。
 咳嗽例は減少した。
 他に水痘、A群溶血性連鎖球菌、発疹がごくわずかの軽症の手足口病、ヘルパンギーナが見られた。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

夏かぜが増加、特にアデノウイルス感染症が増えている。ヒトメタニューモウイルス感染症の流行も続いている。
 ノロウイルス胃腸炎の流行も継続しており、某村では集団感染がみられた。

今週の概要

- 夏休みに海外へ渡航される皆さまへ

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.88	(7.56)	↓	↓	↓	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	2.09	(2.56)	↓	→	↓	→
3	ヘルパンギーナ	0.76	(0.74)	↑	↑↑	↑	↑
4	咽頭結膜熱	0.53	(0.74)	↓	↓	→	↓
5	手足口病	0.50	(0.59)	↗	↑↑	↓	↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナが増えています。特に中和保健所管内東部地域で報告数が多く、1、2歳の発症が多い状況が続いています。また、ヘルパンギーナ同様、咽頭結膜熱や手足口病は夏に向けて増加していくことが予想される感染症です。手洗い、うがい、タオル・おもちゃの共用は避けるなど、感染予防対策を行いましょう。
 感染性胃腸炎およびA群溶連菌咽頭炎は、減少していますが例年より高いレベルとなっています。感染性胃腸炎はウイルスや細菌、寄生虫などの病原体により引き起こされます。夏場は食品が傷みややすく細菌が繁殖しやすくなりますので、調理前後の手洗いや食品の加熱を徹底しましょう。
 暑さが本格的になってきました。規則正しい生活をこころがけ、感染症を予防しましょう。

*** 夏休みに海外へ渡航される皆さまへ ***

◆ 出発前にすべきこと

- 厚生労働省や検疫所のホームページで、渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報を確認しましょう。
- これまで受けた予防接種を確認しましょう。国内の感染症を海外に持ち出さない、又は海外の感染症を国内に持ち込まないために、国内で予防接種が推奨される疾患であって予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を検討しましょう。

◆ 海外渡航前に成人にワクチンが接種可能な医療機関 : <http://www.pref.nara.jp/item/196246.htm>

- 奈良西部病院 トラベルクリニック
0742-51-8700 (予約)
- 奈良県立医科大学附属病院 感染制御内科海外渡航者外来
0744-22-3051 (予約)

◆ 旅行中注意すべきこと

- 生水・氷・生の魚介類・カットフルーツの飲食は避け、食事は十分に火の通ったものを食べましょう。
- 長袖着用や虫除けスプレーで蚊やダニからの感染を防ぎましょう。野生動物との接触も避けましょう。

◆ 参考リンク

- 海外渡航のためのワクチン <https://www.forth.go.jp/useful/vaccination.html>
- FORTH/厚生労働省検疫所 <https://www.forth.go.jp/index.html>
- 厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html



今週の概要

- 小児科外来情報
- 6月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.65	(4.32)	↘	↘	↓	↘
2	ヘルパンギーナ	2.35	(1.74)	↑↑↑	↑↑↑	↑	↑↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.68	(2.03)	↘	↓	→	↘
4	手足口病	1.53	(0.82)	↑	↑	↑↑↑	↑↑↑
5	突発性発しん	0.62	(0.53)	↗	↑	→	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナの報告数が県全域で増加しています。発症すると、乳幼児は口腔内の痛みから、水分をとることも困難になり、脱水症状を起こすこともあるので注意が必要です。刺激が少なく、噛まずに飲み込めるものを摂取するようにして下さい。また、手足口病の報告数も増加しています。両疾患ともワクチンはありません。予防法は、患者との密接な接触を避けることや、手洗い・うがいを行うことなどです。患者さんのおもちゃやタオルの共用を避けることも大切です。

夏休みに入ると、人混みの中へ出かけることも多くなるかと思えます。帰宅時には、手洗い、うがいを行うなど感染症対策を心がけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

感染症は少ない状態が続いています。ヘルパンギーナや手足口病等の夏かぜがみられますが現在のところ増加傾向にはありません。感染性胃腸炎ではノロウイルス等のウイルス性は少なく、細菌性と思われる発熱、腹痛と下痢症状が大人でよくみられます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。夏風邪のパターン。
 高熱・咽頭発赤の例、およびヘルパンギーナが流行。咳嗽例は減少した。
 手足口病はまだ少ない。
 感染性腸炎も流行。明らかな起炎菌等の検出例はなかった。
 他に水痘、A群溶血性連鎖球菌が流行。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

アデノウイルス感染症(扁桃炎、結膜炎、胃腸炎)、ヘルパンギーナが急増。手足口病も増えてきている。
 発疹を伴う咽頭炎も散見されるも、対症療法で軽快している。
 ヒトメタニューモウイルス陽性例はやや減少してきた。

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(6月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.32	(5.21)	↘	↘	↘	↑
2	A群溶連菌咽頭炎	2.03	(2.71)	↘	↘	→	↑
3	ヘルパンギーナ	1.74	(1.26)	↑↑↑	↑	↑↑↑	↑↑↑
4	手足口病	0.82	(0.91)	↑	↗	↑	↓
5	突発性発しん	0.53	(0.59)	→	↑	↘	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナの報告数が増加しています。特に中和保健所管内東部地域で増えており、3歳以下で7割以上を占めています。ヘルパンギーナは、2～4日の潜伏期の後、突然の高熱と咽頭痛を生じます。口腔内の水疱がひどく、破れると強く痛むため、食事や水分をとることも困難になり脱水症状を引き起こすこともあります。予防法は、感染者との密接な接触を避けることや手指の消毒、うがいを行うことなどです。また、便中へのウイルス排泄は、発症から2～4週間後頃まで、続くと言われています。おむつの交換後の手洗いは忘れずに行いましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成30年6月) ◆

*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
A群ロタ G1		1			ロタウイルス腸炎(1)
A群ロタ G9	2				感染性胃腸炎(1)、ロタウイルス腸炎(1)
EBウイルス	3	1			発疹症(1)※、鼻咽頭炎(1) 頸部リンパ節腫・伝染性単核球症疑い(1) 発疹性疾患(じんま疹様)(1)※※
サイトメガロ アストロ		1			発疹症(1)※ 感染性胃腸炎(2)
アデノ 2		4			気管支炎・アデノウイルス感染症(1) 単純ヘルペス疑い・ヘルパンギーナ疑い(1)※※※ 手足口病(1)、気管支炎(1)
アデノ 5	1	1			感染性胃腸炎(1)、気管支肺炎(1)
コクサッキーA群	10	1			単純ヘルペス疑い・ヘルパンギーナ疑い(1)※※※
インフルエンザ AH3		3			インフルエンザ(3)
ノロ G II.2			3		感染性胃腸炎(3)
ヒトメタニューモ		1			ヒトメタニューモウイルス気管支炎(1)
パラインフルエンザ	1	2			上気道炎(2)
ライノ	1	5			発疹症(2)、呼吸不全重症肺炎(1)、急性気管支炎(1)、肺炎(1)、不明熱(1)
ヘルペス 6B	1				発疹症(1)
ヘルペス 7	2				上気道炎(1)、発疹性疾患(じんま疹様)(1)※※

※、※※、※※※重複感染

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.26	(3.06)	↘	↘	↘	↓
2	ヘルパンギーナ	3.00	(2.06)	↑	↑↑	→	↑↑
3	手足口病	1.76	(1.76)	↑	↗	↗	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.53	(1.15)	↘	↘	→	→
5	突発性発しん	0.41	(0.41)	→	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆県内概況◆

ヘルパンギーナの報告数が増加しています。特に郡山保健所管内、吉野保健所管内で増加しており、3歳以下の発症が多い状況が続いています。

手足口病は報告数が多い状況が続いており、吉野保健所管内では、定点あたり報告数が6.5と、警報開始基準値の「5」を超えています。手足口病は症状がなくなった後も便から2～4週間ウイルスが排出されます。手洗いを行い、タオルの共用は避け、感染拡大防止に努めましょう。また、大人が感染することもあるため、おむつの処理後は必ず流水と石けんで十分に手洗いを行うよう注意して下さい。

夏休みに入り、人混みの中へ出かける機会が増えているかと思えます。帰宅時には、手洗い、うがいを行うなど感染症予防対策を心がけましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

夏休みに入り、手足口病やヘルパンギーナ等夏風邪が増えています。発熱は1～2日までです。水泡疹ははっきりしたものから細かいものまで多様です。その他は目立ったものはありません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

夏風邪パターンとなってきた。ヘルパンギーナ、手足口病が急増。
 高熱、咽頭所見ヘルパンギーナで1～2日後に手足を中心に広い範囲にやや小さい発疹が出て水泡形成がほとんどなくコクサッキーウイルス感染症というほうが適当と思われる例もある。

他に髄膜炎疑いの5歳男児例があり紹介した。水痘が流行中。
 感染性腸炎は続いているが軽症状経過。エアコン完備か汗疹がほとんど見られなくなった。
 3か月男児、咳嗽、ゼロゼロ、37.5度の気管支炎例でRS陽性を確認した。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病、ヘルパンギーナが急増。ヘルパンギーナは高熱で咽頭所見も強い。アデノウイルス感染症は減少した。髄膜炎の合併症例はあまりみられない。
 呼吸器系感染症は猛暑、エアコン室内での寝冷え様の患者が多い。

今週の概要

- 蚊媒介感染症について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.06	(3.65)	↘	↘	↘	↓
2	ヘルパンギーナ	2.06	(2.35)	↑	↑	↗	↓
3	手足口病	1.76	(1.53)	↑	↑	↑	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.15	(1.68)	↘	↓	→	↓
5	突発性発しん	0.41	(0.62)	→	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆県内概況◆

ヘルパンギーナは先週よりやや減少しましたが、報告数の多い状況が続いています。
 手足口病の報告は増加しています。吉野保健所管内では、定点あたり報告数が5.5と高くなっており、警報開始基準値を超えています。

ヘルパンギーナと手足口病は、ともに口腔内に水疱性発疹が出現します。口腔内の痛みから、食事や水分補給が十分にできず、脱水症状になることもあるため注意が必要です。また、便中のウイルス排泄は、治った後も2～4週間続きます。おむつの交換後は、排泄物を適切に処理し、しっかりと手洗いをしてください。

夏休みに入りました。日頃から基本的な感染症予防対策(手洗い・うがい・咳エチケット)を心がけましょう。

◆蚊媒介感染症について◆

蚊媒介感染症とは、病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症のことです。主な蚊媒介感染症には、ウイルス疾患である**デング熱**、**チクングニア熱**、**ジカウイルス感染症**、**日本脳炎**、**ウエストナイル熱**、**黄熱**、原虫疾患である**マラリア**などがあります。これらの感染症は主に熱帯、亜熱帯地域で流行しています。

【対策法】

- ☑屋外の蚊が多くいる場所で活動する場合は、できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用するなど、蚊に刺されないよう注意してください。
- ☑蚊媒介感染症の流行地に渡航する場合は、現地で蚊に刺されないように注意しましょう。
- ☑ジカウイルス感染症は、妊娠中の母親からお腹の赤ちゃんに感染する可能性があります。妊婦や妊娠の可能性のある人、そのパートナーは特に注意しましょう。
- ☑日本脳炎は不活化ワクチンによる予防接種、マラリアは医師の処方による予防内服が有効です。
- ☑日本にも生息するヒトスジシマカは、狭い水たまりのような場所で産卵し増殖します。家の周囲を点検して不要な水たまりをなくすことが、ヒトスジシマカの発生を抑え、感染拡大を防ぐことにつながります。



(政府広報オンラインより転載)

【参考リンク】

蚊媒介感染症(厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164483.html>

今週の概要

- 小児科外来情報
- 7 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	ヘルパンギーナ	2.06	(2.53)	→	→	↘	↑
2	感染性胃腸炎	1.65	(2.76)	↓	↓	↓	↓
3	手足口病	1.09	(1.03)	↘	→	↘	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.85	(1.50)	↘	↓	↘	↓
5	RSウイルス感染症	0.65	(0.35)	↑	↑↑	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナは、報告数の多い状況が続いています。便中のウイルス排泄は、治った後でも 2~4 週間続くと言われておりますので、おむつの交換後などの手洗いは十分に行いましょう。
 RSウイルス感染症の報告数が増加しています。特に郡山保健所管内、中和保健所管内西部地域で増加しています。例年夏から増加しはじめ、年末まで増加し、流行が続きます。年長児や大人では軽い風邪症状程度で、感染していることに気づかないこともあります。高齢者や乳児、特に乳児期早期(生後数週間~生後数ヶ月)には細気管支炎、肺炎といった重い呼吸器症状を引き起こすことがあります。年長児や大人は、咳など軽い症状であっても新生児との接触を避け、マスクを着用するなど感染を拡げない心がけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

8 月になりましたが、猛暑のため外出が控えられているためか感染症の患者さんはほとんどありません。手足口病やヘルパンギーナなど夏風邪も保育園児では 7 月中が流行のピークであったようで減少しています。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナの流行が続く。高熱 1~2 日、咽頭痛数日、咽頭痛が熱や口内疹に先行しているようです。手足口病の流行もあるも軽症に経過。髄膜炎の合併例はありません。遷延する下痢はウイルス性胃腸炎かエアコン、水分過剰摂取かの判断に苦慮しています。



子陽接種の必要性は、抗体検査でわかります。今、未来を想うカタチ。風しんの抗体検査。

【お問い合わせ先】奈良県保健所 感染症・予防接種課 TEL:074-2276-1337 風しん、麻疹、水痘、帯状疱疹ウイルス

出典:厚生労働省・風疹の感染予防の普及・啓発事業
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_riyou/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/vaccination/

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(7 月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.76	(3.26)	↘	→	↘	↓
2	ヘルパンギーナ	2.53	(3.00)	↗	↑	↘	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.50	(1.53)	→	→	→	↓
4	手足口病	1.03	(1.76)	↘	↘	→	↘
5	伝染性紅斑	0.41	(0.18)	↑	↑	↑	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナの報告数が多い状態が続いています。吉野保健所管内では先週より増加し、定点当たり報告数が6.0と、警戒開始基準値に達しました。ワクチンはないため、感染者との密接な接触を避け、こまめな手洗いを励行するなど、感染予防対策に努めましょう。
 伝染性紅斑の報告数が県内全域で増加し、特に奈良市保健所管内や中和保健所管内で増加しています。両頬にリンゴのように赤い発疹が出ることから、「リンゴ(ほっぺ)病」と呼ばれることもあります。この発疹が出る前が感染力(人にうつす力)が強く、発疹が現れる時期には感染力はほぼ無くなっており、患者との接触を避けることでの予防は難しいため、手洗い、うがいなどの基本的な感染予防対策を心がけることが必要です。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 30 年 7 月) ◆

* ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
アストロ		1			感染性胃腸炎(1)
アデノ	1	1			溶連菌(1)
アデノ	2	3			感染性胃腸炎(1)、発疹症・不明熱(1)※、不明(1)
エコー	7	1			扁桃炎(1)
コクサッキーA群	10		1		ヘルパンギーナ(1)
コクサッキーB群	4	1			発疹症・不明熱(1)※
ノロ	GH.2	2	1		感染性胃腸炎(2)、感染性胃腸炎・ノロウイルス腸炎(1)
ノロ	GH.6	1			感染性胃腸炎・ロタウイルス腸炎(1)
ヒトパレコ	3	2			ウイルス性敗血症(2)
ライノ	A	1			咽頭結膜熱(1)
ライノ	C		1		発疹症(1)

※重複感染

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.47	(2.82)	↗	→	↗	↗↗
2	RS ウイルス感染症	1.79	(1.71)	↗↗	↗↗	↗	↗↗
3	ヘルパンギーナ	1.50	(1.82)	↘	↘	↘	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	1.00	(1.15)	→	↘	→	↘
5	手足口病	0.74	(1.00)	↘	↘	↘	↘

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗↗急増**、**↗増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↘減少**

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症は報告数がさらに増加しています。郡山保健所管内では報告数が急増しており、中和保健所管内西部地域では定点当たり報告数が5.0と高い状態です。全国的にも7月上旬から報告数が増えはじめ、昨年と同様早い時期からの流行となっています。今後も冬にかけて増加が続くことが予想されますので、注意が必要です。新学期が始まりますが、保育園や幼稚園など集団生活の場では特に予防対策が重要です。咳など呼吸器症状がある場合はマスクを着用し、使用後のマスクは放置せずすぐにゴミ箱に捨てましょう。

感染性胃腸炎は報告数が増加しています。有効な予防方法は手洗いです。トイレやおむつ交換の後は流水・石けんによる十分な手洗いを行ってください。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

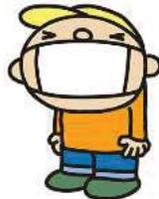
夏期休診中の定点が多く報告数は少ない。当方も8/17から1週間休診しましたので、目だったものはほとんどありません。先週に手足口病やヘルパンギーナが少しあったくらいです

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は少ない。
 ヘルパンギーナ、手足口病は減少。軽度の咽頭発赤の夏風邪が少し。
 感染性腸炎もすくない。
 RSV,hMPV もなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナの流行が続く。手足口病も多い。コクサッキーA9 感染では、手足以外に全身性の小発疹がみられた。
 8月後半より昨年同様にRSウイルス感染が急増、入院必要例も多い。
 8月下旬より嘔吐、下痢が遷延するウイルス性胃腸炎が一部保育所を中心に流行し始めた。便迅速ではノロ、ロタ、アデノ陰性であった。



今週の概要

- 風しんに関する注意喚起

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.82	(1.65)	→	→	→	↘
2	ヘルパンギーナ	1.82	(2.06)	↘	→	↘	→
3	RS ウイルス感染症	1.71	(0.65)	↗↗	↗↗	↗↗	→
4	A群溶連菌咽頭炎	1.15	(0.85)	→	→	→	↘
5	手足口病	1.00	(1.09)	↘	→	↘	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗↗急増**、**↗増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↘減少**

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症の報告数が増加しています。中和保健所管内の報告数が増加し、特に中和保健所管内西部地域では定点当たり報告数が5.83と急増しています。RS ウイルスは、ほぼすべての子どもが2歳までに一度は感染するとされており、乳幼児早期(生後数週間~生後数ヶ月)や高齢者に感染すると重症化しやすいため、注意が必要です。一回の感染では免疫のでき方が弱いため繰り返し感染しますが、症状は年齢を追うごとに軽くなっていきます。年長児や成人は、軽い咳などの症状でも、乳児や高齢者との接触を避けましょう。また、感染経路は、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことで感染する飛沫感染と、ウイルスが付着した手や物品(手すり、おもちゃなど)を触ったりなめたりすることによる接触感染です。流水・石けんによる手洗いや、うがい、咳エチケットを心がけましょう。

◆ 風しんに関する注意喚起 ◆

2018年32週までの風しんの累積報告数が139人となり、2016年および2017年の年間累積報告数を上回りました。特に千葉県と東京都を中心とした首都圏で風しん患者が急増しています。

◆ 風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風しんにかかると、眼や心臓、耳などに障がいをもつ先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

◆ 妊娠中は風しんワクチンの接種は受けられません。妊娠を予定または希望する女性は、妊娠前に2回の風しん含有ワクチンを受けておきましょう。また、受けた後も2か月間妊娠を避ける必要があります。妊婦と同居する家族や職場の同僚などの周囲の人も、免疫が十分でない人はワクチン接種を検討しましょう。

先天性風しん症候群



政府広報オンラインより転載

【参考リンク】

- 風しんについて (厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/
- 風しん疫学情報 (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>

今週の概要

- 小児科外来情報
- 8 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RS ウイルス感染症	3.91	(3.18)	↑↑	↑↑	↑	↓
2	感染性胃腸炎	3.06	(2.56)	→	↗	→	↗
3	手足口病	1.35	(0.94)	↗	↗	↑	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.79	(0.85)	↘	↓	→	↑↑
5	ヘルパンギーナ	0.74	(1.12)	↓	↓	↘	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症は報告数がさらに増加しています。特に中和保健所管内西部地域では定点当たり報告数が7.3と高い状態です。今後も冬頃まで増加し、流行が続くことが予想されます。呼吸器系の症状がある場合はマスクを着用し、重症化しやすい生後数ヶ月までの乳児や高齢者との接触を避けましょう。
 手足口病の報告数は、郡山保健所管内と中和保健所管内西部地域で特に多くなっています。手足口病やヘルパンギーナは、感染の原因となるウイルスの便中への排泄が2～4週間続くとされています。流行のピークを過ぎても、トイレのあとやおむつの交換後は、流水・石けんによる手洗いを行いましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

夏休み明けで感染症の患児は少ない。手足口病やヘルパンギーナ等の夏かぜも今シーズンは小さな流行ではほぼ無くなっている。保育園児で風邪症状から弛張熱、喘鳴が出てくる RS ウイルス感染症が例年よりも早期に増加している。現在目立つのは、対象疾患でない喘息と鼻炎のアレルギー疾患である。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

感染症は少ない。
 軽度の感冒症状程度。喘鳴の乳児例があったが RS・hMPV は陰性。
 手足口病・ヘルパンギーナ・アデノ等の夏風邪はほぼ見られなくなった。
 伝染性紅斑の成人女性例があり発熱、手肢のこわばり等比較的重い経過であった。
 感染性腸炎が少し。血便等細菌性と思われる例はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

夏かぜは減少してきた。RSV 感染症の流行は続いている。下痢・嘔吐の胃腸炎も多い。
 筋肉痛を伴う急な高熱が数例みられたが、いずれもインフルエンザは陰性で、対症療法ですみやかに軽快した。

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(8月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RS ウイルス感染症	3.18	(1.79)	↑↑	↑↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.56	(3.47)	→	↘	→	↑
3	ヘルパンギーナ	1.12	(1.50)	↘	↘	↘	↓
4	手足口病	0.94	(0.74)	→	→	→	↓
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.85	(1.00)	↘	↘	↘	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症の報告数が更に増加しています。中和保健所管内や郡山保健所管内での報告数が特に増加しています。生後数ヶ月までの乳児や高齢者が感染すると重症化しやすいため注意が必要です。感染経路は咳やくしゃみ、会話をした際に飛び散るしぶきを浴びて吸い込む飛まつ感染や、ウイルスがついている手指や物品を触ったり又はなめたりすることによる間接的な接触感染です。流行する時期には、軽くても症状がある成人や年長児は、乳児や高齢者には近づかないようにする注意が必要です。手洗いやマスクの着用も行いましょう。こどもが日常的に触れるおもちゃや手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒しましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 30 年 8 月) ◆

*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
A 群ロタ G9	1				感染性胃腸炎(1)
EB		1			発疹症(1)
RS		1			急性上気道炎(1)
アデノ	4	2			感染性胃腸炎(2)※
アデノ	5	1	1	1	不明熱(1)、強い頭痛を伴う咽頭炎(1)、手足口病(1)※※
コクサッキーA 群	6	3			発疹症・扁桃炎(1)、手足口病(2)※※※、※※※※
コクサッキーA 群	9		1	1	発疹症(1)、手足口病(1)※※
コクサッキーA 群	10	1			ヘルパンギーナ(1)
コクサッキーA 群	16		1		手足口病(1)
サイトメガロ	1	1			突発性発疹・喘息様気管支炎(1)※※※※※、咽頭結膜熱(1)
サボ		1			感染性胃腸炎(1)
ノロ	G II.2	4			感染性胃腸炎(4)※
ヘルペス	6B	1	1		突発性発疹・喘息様気管支炎(1)※※※※※、鼻咽頭炎(1)
ライノ		7		1	急性上気道炎(1)、肺炎(1)、発熱(1) 感染性胃腸炎・急性気管支炎・ノバロウイルス感染症疑い(1)、ウイルス性筋炎疑い(1) 手足口病(3)※※※、※※※※
ライノ	A	2			ヘルパンギーナ(1)、不明熱・下肢痛(1)

※、※※、※※※、※※※※、※※※※※重複感染

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RSウイルス感染症	4.94	(4.85)	↑	→	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.18	(3.53)	↓	↓	↓	↓
3	手足口病	0.91	(1.26)	→	→	→	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.65	(0.88)	↓	↗	↓	→
5	突発性発しん	0.56	(0.59)	→	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症の増加が続いています。中和保健所の東部地域(旧桜井保健所管内)では、先週から倍増しています。RSウイルス感染症は、例年年末に向けて多くなる呼吸器感染症ですが、今年は9月末の時点で例年のピーク時以上に多くなっています。小児科定点対象疾患であるため報告されている患者の中心は2歳までですが、成人や高齢者も感染します。乳幼児や高齢者で入院治療が必要となった重症例では、インフルエンザと比較して、同程度もしくはそれ以上に致死率が高いことが示唆されています。家庭や、介護施設等の集団生活の場には、持ち込まないことが重要です。健康な成人では、軽い咳、鼻汁程度の軽い症状しかなく、感染していることがわかりにくいですが、症状に気づいた場合には、乳幼児や高齢者との接触は避けるようにしましょう。

(参考 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2296-related-articles/related-articles-412/4713-dj4127.html>)

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数はまだ増加傾向には無い。RSウイルス感染症が時にみられる程度で、まだ感染性胃腸炎も増加していない。この夏の手足口病やヘルパンギーナは非常に少なかった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は少しずつ増加傾向。ヘルパンギーナ、アデノ様の例は見られなくなり、軽度の咽頭発赤、短期の発熱例が多くなった。乳児の咳嗽・ゼロゼロ例があるがRS例は減少。

生後2Wの発熱以外無症状のRS例があった(臨時報告済)。
 感染性腸炎がわずかず持続、ロタ陽性例はない。その他水痘が少し。

今夏手足口病は少なかったが今週再び5歳児で数例見られた。症状は熱なし、軽症。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RSウイルス感染症の流行が続いている。入院の大部分が当該疾患となっている。呼吸停止例はないものの、夜間の酸素飽和度低下が回復しない乳児が多い。

手足口病、ヘルパンギーナは激減したが、アデノウイルス腸炎やノロ・ロタウイルス胃腸炎は散見されている。

今週の概要

- 小児科外来情報(中部地区:臨時情報)
- A型肝炎の報告が増えています!!

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RSウイルス感染症	4.85	(3.91)	↑	↑↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	3.53	(3.06)	↗	↗	↗	→
3	手足口病	1.26	(1.35)	↗	→	→	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	0.88	(0.79)	→	↓	→	→
5	突発性発しん	0.59	(0.59)	↗	↑	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症が更に増加しています。中和保健所西部地域(旧葛城保健所管内)が特に多く、その他内吉野保健所を除く全ての地域で増加が続いています。RSウイルスは、すべての年齢層で上気道炎や下気道炎を引き起こします。健康な成人は、風邪程度の症状で自然軽快しますが、乳児や高齢者では肺炎などの下気道炎を引き起こし、特に慢性呼吸器・心疾患を合併する高齢者では入院・死亡の主要な原因になるとされます。ワクチンや抗ウイルス薬はありません。鼻水や咳程度の風邪のような症状がある人は、乳児や高齢者に近づかないように、またマスク・手洗いの感染予防対策を徹底するようにしてください。RSウイルスには、アルコールや塩素系の消毒剤が有効です。

感染性胃腸炎も、中和保健所西部地域からの報告が多くなっています。こまめな手洗いを心がけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆ 中部地区:臨時情報(岡本内科こどもクリニック)

この数週に3例の生後2~3週の新生児発熱で菌血症も懸念し念のため紹介・入院の例があった。うち生後2週男児で初診時38度、感冒症状なし咳嗽なしその他著名な異常所見なしの例で本日RSV迅速陽性の返事があった。発熱は3日間、ミルクのみ良好、呼吸器症状の増悪なし(情報提供書のまま)

WBC10700 CRP 0.03 尚、第1子であり、周囲の明らかなRSV接触感染源については不明。

A型肝炎の報告が増えています!!

A型肝炎とは? A型肝炎ウイルスによる疾患です。潜伏期は2~6週間と長く、発熱、倦怠感、食思不振、嘔吐、黄疸などの症状が現れます。血液検査で、肝機能の数値(ALTまたはGPT、ASTまたはGOT)などが上昇します。通常1~2カ月ほどで回復しますが、まれに劇症化して死亡する事もあります。

感染経路 食物等を介してウイルスを口から取り込む(経口感染)ことにより感染します。ウイルスは、約1~2ヶ月の間、便中に排泄されるため、排便後の手洗いが不十分だと、人の手を介して汚染が広がります。

増加しています! 感染経路は食事等の経口感染の他に性的接触があり、特に2018年は男性の同性間性的接触による感染が増加しています。奈良県でも、例年0~3例程度でしたが、今年はこれまで7例と多くなっています。保健研究センター及び国立感染症研究所での遺伝子解析により、男性の同性間性的接触による感染拡大しているウイルスの他、昨年他県で中国産冷凍殻付きアサリから検出されたウイルスに類似しているウイルスを検出しています。

予防には A型肝炎には、有効な抗ウイルス薬はありませんが、ワクチンがあります。感染者の同居者やパートナー等、特にA型肝炎ウイルスの曝露リスクが高い方は、ワクチン接種を検討しましょう。また、症状がなくなった後も、ウイルス排泄が続く期間は、手洗い等の衛生管理は重要です。

《予防接種実施機関の探し方(FORTH) <https://www.forth.go.jp/useful/vaccination02.html>》

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RS ウイルス感染症	3.18	(3.09)	↘	↘	→	↘
2	感染性胃腸炎	2.29	(2.21)	→	→	↘	↘
3	手足口病	1.88	(0.97)	↑	↑	↑	↓
4	ヘルパンギーナ	0.71	(0.44)	→	↘	↗	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	0.68	(0.85)	→	↗	↘	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症は報告数が多い状況が続いています。また、第 40 週はインフルエンザの報告が奈良市保健所管内から 6 件、中和保健所管内西部地域から 3 件ありました。マスク、手洗いによる基本的な感染症予防や、咳エチケットによる感染拡大防止を心がけましょう。

手足口病の報告数は 9 月に入ってから減少していましたが、第 40 週は再び増加しています。特に奈良市保健所管内、中和保健所管内西部地域で増加しています。年齢別に見ると 1~2 歳児の発症が多く、およそ 7 割を占めています。手足口病は症状がなくなった後も 2~4 週間、便からウイルスが排泄されることがありますので、特におむつを交換した際は必ず流水と石けんで十分に手洗いを行ってください。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

朝晩の気温の低下により、鼻汁、咳、咽頭痛の風邪の方が増加傾向にあります。対象疾患では一旦少なくなっていた手足口病が保育園児で増加しています。症状は口内炎が少なく、四肢の水疱疹も少ない方が目立ちます。熱も出ていない方が多くなっています。RS ウイルス感染症は減っています。感染性胃腸炎もまだ増加はしていません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は徐々に増加。一日ほどの発熱、感冒症状の例が主。
 夏風邪はほぼ見られなくなった。手足口病はすくない。
 感染性腸炎もすくない。
 その他の感染症は少ない状況。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RS ウイルス感染症の流行は続いている。夏カゼは激減し、咳嗽の遷延する呼吸器感染症が増加している。胃腸炎はあまり多くない。

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(9月)

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RS ウイルス感染症	3.09	(4.94)	→	↘	→	↑
2	感染性胃腸炎	2.21	(2.18)	↘	↘	↘	↓
3	手足口病	0.97	(0.91)	→	↗	↘	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	0.85	(0.65)	→	↑	↘	↓
5	咽頭結膜熱	0.53	(0.09)	↑	→	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症は報告数が多い状況が続いており、定点当たり報告数は、近府県の中で奈良県が最も多くなっています。今後も冬にかけて流行が続くことが予想されますので、注意が必要です。また、9 月に入ってからインフルエンザの報告が出てきています。第 39 週は奈良市保健所管内から 2 件ありました。RS ウイルス感染症もインフルエンザも、感染経路はともに飛沫感染と接触感染です。石けんと流水による手洗いや、うがい、咳エチケットを心がけましょう。

咽頭結膜熱(プール熱)は中和保健所管内西部地域で報告が増加しています。症状は発熱、のどの痛み、結膜炎などです。タオルの共用は避け、プールや温泉施設では利用の前後にシャワーを浴びるなどの予防対策を行いましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 30 年 9 月) ◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
RS	1				RS ウイルス感染症(1)
アデノ	1	1			発疹症(1)
エコー	11	2	2		慢性下痢(1)、発疹症(1) 無菌性髄膜炎(2)
コクサッキーA群	9	2			無菌性髄膜炎(2)
サイトメガロ		1			突発性発疹(1)
水痘・帯状疱疹		1			水痘(1)
ノロ	G II.6		1		感染性胃腸炎(1)
ライノ	A	1			鼻咽頭炎(1)

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.50	(2.68)	➡	➡	➡	➡
2	RS ウイルス感染症	2.18	(2.21)	➡	➡	➡	➡
3	手足口病	1.24	(0.94)	➡	➡	➡	➡
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.12	(0.85)	➡	➡	➡	➡
5	咽頭結膜熱	0.35	(0.24)	➡	➡	➡	➡

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症は報告数が多い状態が続いています。咳など呼吸器症状がある場合はマスクを着用し、重症化しやすい乳児や高齢者との接触を避けましょう。
 第 42 週はインフルエンザの報告が奈良市保健所管内から 3 件、内吉野保健所管内から 1 件ありました。小児科外来情報にも記載があるとおり、奈良市保健所管内でインフルエンザの集団感染が発生しています。保健研究センターの検査では、AH1pdm09(2009 年流行型)を検出しました。こまめな手洗いや咳エチケットなど基本的な感染症予防対策に努めましょう。
 手足口病は第 41 週で報告数が減少しましたが、第 42 週は再びやや増加しています。大人が感染することもあるため、おむつの交換後は必ず流水と石けんによる手洗いを行ってください。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

10 月 22 日に近隣の小学校でインフルエンザによる学級閉鎖がありました。当院に来院された方は迅速検査で A 型でした。また、朝晩の冷え込みの為か感冒の方が増えてきています。一方、手足口病等夏風邪や RS ウイルス感染症がまだ保育園でみられます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は気候の変化に応じて増加。鼻水等感冒程度の例が主。
 RS、hmpv、マイコプラズマ様疾患はなかった。
 インフルエンザはまだ見られない。
 感染性腸炎の流行はあるがノロウイルス・ロタウイルスは陰性。
 その他水痘がわずか。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RS ウイルス感染症の流行が続く。生後1ヵ月未満の新生児事例もみられる。
 インフルエンザは流行の兆しがあるが、当院での受診はまだない。
 秋の胃腸炎は大きな流行にはなっていない。

今週の概要

- 風疹の報告数が増加しています
- 9 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.68	(2.29)	➡	➡	➡	➡
2	RS ウイルス感染症	2.21	(3.18)	➡	➡	➡	➡
3	手足口病	0.94	(1.88)	➡	➡	➡	➡
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.85	(0.68)	➡	➡	➡	➡
5	突発性発しん	0.47	(0.47)	➡	➡	➡	➡

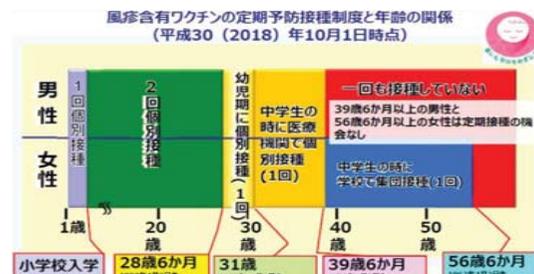
発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎は報告数が徐々に増加しており、年齢を問わず報告があります。有効な予防方法は手洗いですので、調理前やトイレの後など、流水と石けんによるこまめな手洗いを行いましょう。
 RS ウイルス感染症は減少傾向ですが、報告数が多い状態が続いています。また、第 41 週はインフルエンザの報告が奈良市保健所管内から 2 件ありました。ともに感染経路は飛沫感染と接触感染です。今後、寒くなるにつれてインフルエンザの流行が予想されますので、人の多いところではマスクをし、外出後はしっかり手洗いを行うなど、予防に努めましょう。

◆ 風疹の報告数が増加しています ◆

- 2018 年第 1~40 週の全国の風疹患者の累積報告数は 1,103 人となり、すでに昨年の 12 倍の報告数となっています。
 - 報告患者の 96%が成人であり、免疫を持っていない人が多い **30~40 代の男性**が全体の半数以上を占めています
 - 推定感染源に記載があったものの中では「**職場**」と記載があるものが最も多くなっています



- 第 33 週でもお伝えしましたが、**妊娠 20 週頃までの女性**が風疹ウイルスに感染すると、目や心臓、耳などに障がいをもつ**先天性風疹症候群**の赤ちゃんが生まれる可能性があります。生まれてくる赤ちゃんを先天性風疹症候群から守るために、妊婦の家族や職場の同僚など、周りの人も予防接種を受けておくことが大切です。
 - 女性は**妊娠前**に 2 回の風疹含有ワクチン (MR ワクチン) を受けましょう
 - **30~50 代の男性**で、風疹にかかったことがないかワクチン未接種の方、もしくは接種歴が不明の方は早めにワクチン接種を受けましょう

● 風しんについて (厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.56	(2.94)	➡	➡	➡	↓
2	RSウイルス感染症	1.41	(1.59)	⬇	⬇	⬇	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.12	(1.32)	➡	⬇	↑	⬇
4	手足口病	1.03	(1.32)	➡	⬇	➡	↓
5	咽頭結膜熱	0.50	(0.47)	➡	↑	➡	➡

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**⬇**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザは、奈良市保健所管内から 13 件、郡山保健所管内と中和保健所管内からそれぞれ 2 件の報告があり、少しずつ増えてきています。今後、インフルエンザの流行期を迎えるにあたり、飛まつ感染対策としての咳エチケット(症状のある人が咳やくしゃみの際にマスクやティッシュ等で口を覆うこと)、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要となります。また、予防接種を受けていない方は、早めに接種するようにしましょう。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、中和保健所管内西部地域で報告数が多くなっています。患者は幼稚園～小学校低学年くらいの子で多くなっています。治療には抗生物質が効果的です。咽頭痛がある場合は、早めに医療機関を受診し、医師の指示どおりに服薬しましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数は、インフルエンザ予防接種希望者で多くなっているが、感染症自体はあまり多くない。3 週前より小学校や保育園で A 型インフルエンザの流行が始まっています。症状は例年通りで、突然の高熱があり、続いて咳が出てきます。

その他には、流行性耳下腺炎の流行している園、手足口病が出ている園など季節感がなくなっています。当然、RSウイルス感染症も幼児で続いています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

発熱・咳嗽の感冒症状の例が増加してきた。
 他医院で診断の RS 乳児例があった他は迅速診断各種での陽性例はなかった。
 感染性腸炎も持続しているが迅速陽性例はなかった。
 インフルエンザはまだみられていない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

マイコプラズマ感染症が増加。マクロライドが不応の肺炎症例が多い。RSウイルス感染症の流行は続いているものの、減少してきている。
 軽症の胃腸炎も増えてきているが、ノロウイルスは陰性であった。

今週の概要

- インフルエンザに感染しないようにするためには
- 気になる話題「RSウイルス感染症」

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.94	(2.50)	↗	➡	↗	↑↑
2	RSウイルス感染症	1.59	(2.18)	⬇	⬇	⬇	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.32	(1.12)	↑	➡	↑	↑↑
3	手足口病	1.32	(1.24)	➡	➡	↗	↓
5	インフルエンザ	0.49	(0.07)	↑↑↑	↑↑↑	↓	↑↑↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**⬇**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数が増加しています。奈良市保健所管内では定点当たり報告数が1.0を超えています。また、RSウイルス感染症も報告数が多い状態が続いています。ともに、感染経路は飛まつ感染と接触感染です。マスク・手洗い等の感染予防を心がけるようにしましょう。

感染性胃腸炎は報告数が徐々に増加しており、年齢を問わず報告があります。有効な予防方法は手洗いですので、調理前やトイレの後など、流水と石けんによるこまめな手洗いを行いましょう。また、食品を生で食べることは避け、よく加熱して食べるようにしましょう。

インフルエンザに感染しないようにするためには

- 流行前のワクチン接種
- 外出時のマスクの着用
- 帰宅時や調理時、食事前の手洗い
- 適度な湿度の保持
- 十分な睡眠と栄養のとれた食事
- 人混みや繁華街への外出を控える

急に 38 度以上の発熱が出て、咳やのどの痛み、全身の倦怠感を伴うなどインフルエンザが疑われる症状が出たときは、早めに医療機関を受診しましょう！

◎厚生労働省 インフルエンザ(総合ページ)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/influenza/index.html

正しい手の洗い方

手洗いの前に
 ・爪は短く切っておきましょう
 ・時計や指輪は外しておきましょう

流水をよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。
 手の甲をのぼすようにこすります。
 指先・爪の間を念入りにこすります。
 指の間を洗います。
 親指と手のひらをねじり洗います。
 手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

イラスト出典: 首相官邸ホームページ
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansenshou/influenza.html>

今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センター11月日より「エンテロウイルス D68 型の検出について」

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.26	(3.74)	↗	↑	↗	↘
2	手足口病	1.76	(1.71)	↗	↑	↗	→
3	A群溶連菌咽頭炎	1.50	(1.88)	→	→	↗	↓
4	インフルエンザ	0.71	(0.82)	↑	↑	↑↑	↑
5	RSウイルス感染症	0.65	(0.65)	↓	↓	↘	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告が続いています。第 46 週では、特に中和保健所管内西部地域で報告数が増加しています。これから、流行のシーズンに入っていきます。まだインフルエンザの予防接種を受けていない方は、早めに接種するようにしましょう。マスク・手洗い等の感染予防、咳エチケットによる感染拡大防止を心がけるようにし、急に 38 度以上の発熱が出て、咳やのどの痛み、全身の倦怠感を伴うなどインフルエンザが疑われる症状が出たときは、早めに医療機関を受診しましょう。

手足口病は、例年の同時期よりも報告数が多くなっています。治った後でも、比較的長い期間、便などからウイルスが排泄されることがあります。トイレの後やおむつ交換後は、石けんできちんと手洗いを行いましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

外来はインフルエンザ予防接種希望者で多くなっているが、感染症に目立った増加はみられない。インフルエンザは迅速検査で A 型がみられるが、増加傾向は今のところない。嘔吐と下痢、発熱の感染性胃腸炎も流行がみられない。数は少ないがまだ手足口病が一部の保育園でみられる。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

咳嗽例が増加。RS 様の乳児例(1歳以上)マイコプラズマ様(迅速陰性)の学童も多い。ノロ様の嘔吐例、および下痢が主体の感染性腸炎例が持続。大腸菌(分離選択培地確認済)が検出され血便が遷延した乳児例があり紹介入院した。ロタ陽性例はなかった。全身粟粒～米粒大発疹症の乳児例がありウイルス分離提出中。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

マイコプラズマ感染症の流行が続いている。遷延する咳嗽、夜間の発熱と症状は典型的だが、テトラサイクリン不応例が多い。嘔吐下痢の胃腸炎が増加、ノロウイルス迅速では陰性だが対症療法で軽快している。インフルエンザの当科受診例はまだない。

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(10月)
- 10月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.74	(2.56)	↗	↑	↗	↑
2	A群溶連菌咽頭炎	1.88	(1.12)	↑	↑	↑	↘
3	手足口病	1.71	(1.03)	↗	→	↑	↓
4	インフルエンザ	0.82	(0.31)	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	↓
5	RSウイルス感染症	0.65	(1.41)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数が増加しています。特に奈良市保健所管内で報告数が多い状態です。予防には、1)ワクチン接種、2)飛沫感染対策としての咳エチケット、3)外出後の手洗い等、4)適度な湿度の保持、5)十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取、6)人混みや繁華街への外出を控える を心がけてください。

全数把握対象疾患では、風疹の報告が続いています。最も有効な予防方法はワクチン接種です。ワクチン未接種や接種歴が不明な方は、早めにワクチン接種を受けるようにしましょう。特に、妊娠初期の女性が風疹ウイルスに感染すると、先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊娠を希望されている方だけでなく、その家族や会社の同僚等、周りの人もワクチン接種をすることが大切です。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 30 年 10 月) ◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
RS		1			RSウイルス感染症(1)
インフルエンザ AH1pdm09		1			インフルエンザ(1)
コクサッキーA群 9		2			咽頭炎、発疹症(1) 手足口病・四肢体幹に小紅斑散在(1)
サイトメガロ	1	2	1		ヘルパンギーナ(2)※、発疹症(1) 発疹症・気管支炎(1)
パラインフルエンザ 1		2			不明熱(1)、気管支炎(1)
パラインフルエンザ 3		1			クループ(1)
ヘルペス 6B	1				ヘルパンギーナ(1)※
ライノ	1	1			PFAPA 疑い(1)、無菌性髄膜炎(1)
A群ロタ G1		2			感染性胃腸炎(ロタウイルス腸炎)(2)

※重複感染

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要
 ・小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.62	(3.62)	↑	↑	↑	→
2	A群溶連菌咽頭炎	1.82	(1.59)	↗	↑	→	↓
3	インフルエンザ	1.78	(0.78)	↑↑	↑↑	→	↑↑
4	手足口病	1.00	(1.26)	↘	→	↓	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.76	(0.29)	↑	→	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点当たり報告数が 1.0 を超えましたので、インフルエンザの流行が始まったとみられます。子どもから高齢者まで、ほぼ全ての年齢層において報告があります。今後の流行にそなえて、まだインフルエンザの予防接種を受けていない方は、早めに接種するようにしましょう。また、適度な湿度の保持、十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えるなども感染予防には重要です。日頃から、マスク・手洗い等の感染予防を心がけるようにしてください。

感染性胃腸炎の報告数が増加しています。特に中和保健所管内西部地域で大幅に増えています。流行期間中は、症状の有無にかかわらず、手洗いを励行することが大切です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数は気候が温暖なため感染症はこの時期としては少ない。インフルエンザも 10 月中旬からみられているが、気候のせいが増加傾向にない。感染性胃腸炎も昨年に続いて少ない状態が続いている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は曜日により変動あるもののこの時期にしてはそう多くない状況。
 インフルエンザは僅かにあったがその後増加はない。
 マイコプラズマ様、RS 様の咳嗽例が多いが迅速陽性例はなかった。
 感染性腸炎が持続、ノロ・ロタ陽性例はなく、血便を伴う細菌性と思われる例を散見。
 前回報告の病原性大腸菌 (O166 +++) が検出され血便が遷延した乳児例の紹介先からの返事は“乳児良性出血”との事であった。
 他の登録疾患は少ない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

マイコプラズマ感染症は減少してきたが、遷延する咳嗽患児は多い。
 胃腸炎ではアデノウイルス陽性が数名あり。ノロウイルス陽性はなかった。
 11 月下旬に入り A 型インフルエンザが増加してきた。混合感染による入院例もあり。タミフル、イナビルは効果がみられている。

今週の概要
 ・ノロウイルスによる感染性胃腸炎の予防と消毒法について

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.62	(4.26)	→	→	↗	↘
2	A群溶連菌咽頭炎	1.59	(1.50)	→	↗	→	↓
3	手足口病	1.26	(1.76)	→	→	→	→
4	インフルエンザ	0.78	(0.71)	↑	↗	↑↑	↓
5	RSウイルス感染症	0.59	(0.65)	↓	↓	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数は少しずつ増加しています。第47週では、特に中和保健所管内東部地域で報告数が増加しています。そろそろインフルエンザの流行期に入っていきます。まだインフルエンザの予防接種を受けていない方は、早めに接種するようにしましょう。また、適度な湿度の保持、十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えるなども感染予防には重要です。日頃から、マスク・手洗い等の感染予防を心がけるようにしてください。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、中和保健所管内西部地域で報告数が多い状態が続いています。治療には、抗生物質が効果的です。咽頭痛がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎の予防と消毒法について

◎ 予防法

- ① トイレ後、おむつ交換後、食事前、調理前後には石けんを使い、しっかり手を洗いましょう。
- ② ノロウイルスは熱に弱く、加熱により感染力が失われます。
 特に、カキなどの二枚貝は中心部まで十分に加熱(85~90℃で90秒間以上)してから食べましょう。
- ③ 包丁・まな板などの調理器具、タオルやふきんなどは消毒しましょう。
 ※エタノール消毒は無効です。次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)や熱湯中で加熱(85℃以上で1分間以上)で消毒しましょう。

◎ 汚物・嘔吐物の処理・消毒法

- ・使い捨てのマスクやガウン、ビニール手袋を着用して、処理を行いましょう。
- ・塩素系漂白剤の消毒液をスプレーすると、ウイルスが空気中へ舞い上がるため、感染を広げてしまいます。消毒液を含ませたペーパータオルなどで被い、10分程度放置して消毒しましょう。
- ・糞便や嘔吐物で汚れた衣類等は、ペーパータオルなどで汚物を取り除き、熱湯消毒か塩素系漂白剤でつけ置き洗いをしましょう。
- ・拭き取った汚物や嘔吐物、使用した手袋などはビニール袋に密閉して廃棄してください。
- ・処理後は、よく手を洗い、うがいをしましょう。

- ★次亜塩素酸ナトリウムの希釈方法(5%濃度の塩素系漂白剤の場合)
- ・嘔吐物・下痢処理時…500mlの水に ペットボトルキャップ 2杯分加える
 - ・環境の消毒 …500mlの水に ペットボトルキャップ 半杯分加える



◎厚生労働省ーノロウイルスに関するQ&A
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

インフルエンザの流行が始まっています

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題「一梅毒について」

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(11月)
- 11月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	5.20	(1.09)	↑↑	↑↑	↑↑	→
2	感染性胃腸炎	5.06	(6.35)	→	→	↗	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.59	(2.15)	↗	→	↑	↗
4	手足口病	0.82	(0.71)	↘	↓	↘	↓
5	水痘	0.76	(0.24)	↑	↑↑	↗	↑↑

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.35	(5.62)	↑	↗	↑	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	2.15	(1.82)	↗	↗	↗	↑↑
3	インフルエンザ	1.09	(1.78)	↗	↗	↗	↓
4	手足口病	0.71	(1.00)	↘	↘	↘	↓
5	RSウイルス感染症	0.59	(0.41)	↘	↘	↘	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数は増加しています。特に中和保健所西部地域では、第49週の30倍の報告があり、定点当たり報告数は12となり、注意報開始基準値の10を上回っています。その他の地域についても報告数は増加しています。食器、タオルなどの共有は避け、手洗いをこまめに行うよう努めましょう。

水痘の報告数は北部地域で増えています。水痘は、感染力の強い水痘・帯状疱疹ウイルスが原因の疾患です。有効な予防方法はワクチン接種で、平成26年より定期接種となっています。主に小児の疾患ですが、成人が発症すると重症化するリスクが高いとされているため、注意が必要です。

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告数が増加しています。ノロウイルスに感染すると、症状回復後も便中にはウイルスが排泄されています。トイレの後、調理前、おむつ交換後などこまめに手洗いを行いましょう。また高齢者が感染すると、嘔吐物が喉につまり、窒息してしまう事例も起きているため、特に注意が必要です。

インフルエンザの報告数は、今後増加してくることが予想されます。咳やくしゃみが出る場合は、咳エチケットを行い、学校や職場へ無理をして行くことは避け、医療機関を受診して下さい。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数は、インフルエンザ予防接種が終わり、感染性胃腸炎が少ない状態が続き、12月には多くない。先週インフルエンザが増加したが、今週は少なくともまだ流行が開始している感はない。迅速検査では全てA型が検出されている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

前週末から学童を中心にインフルエンザが急増。すべてA型。重症の印象はない。感染性腸炎も流行。ノロ様。ロタはない。RSV、hMPV陽性例がそれぞれ1例ずつあった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

増加したインフルエンザは落ち着いている。ノロウイルス胃腸炎が増加、またそれ以外の下痢中心の胃腸炎も増加してきた。マイコプラズマ感染症も多い。



*ウイルス分離同日での集計結果
 *重複感染

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成30年11月) ◆

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
インフルエンザ AH1pdm	1				インフルエンザ(1)
ノロ GI.2		1			感染性胃腸炎(1)
ムンプス 鳥居株	1				無菌性髄膜炎(1)
RS			8		RSウイルス感染症(3)、RSウイルス気管支炎(1)、肺炎(1)、気管支肺炎(1)、喘息様気管支炎(1)、上気道炎(1)
エコー 11		2			感染性胃腸炎(1)、無菌性髄膜炎(1)
コクサッキー A6		1			不明(1)
コクサッキー A9		3			発疹症(2)、無菌性髄膜炎(1)
コクサッキー A16		1			ヘルパンギーナ・手足口病(1)
エンテロ D68		1			喘息様気管支炎(1)
ライノ	1	8			無菌性髄膜炎(1)*、気管支肺炎(2)、急性気管支炎(1)、喘息性気管支炎(1)、気管支炎(1)、急性上気道炎(1)、上気道炎(1)、鼻咽頭炎(1)
サイトメガロ		1			発疹症(1)
EB		1			無菌性髄膜炎(1)*
ヒトパレコ 3		2			発疹症(1)、不明熱(1)

インフルエンザ注意報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	9.65	(10.51)	↑	↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	6.15	(6.94)	→	→	→	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.94	(2.74)	→	→	↓	↗
4	RSウイルス感染症	0.65	(0.79)	↗	→	↗	↓
5	咽頭結膜熱	0.44	(0.59)	↓	→	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

◆ 県内概況 ◆

第 52 週は年末で休診の医療機関があり、患者報告数は減少しています。インフルエンザの報告数は横ばいですが、吉野保健所管内では急増しています。乳幼児や高齢者など、免疫力が低下している方が感染すると、急性脳症や肺炎を伴い重症化することがあります。くしゃみや咳の症状がある場合は、咳エチケットによる感染拡大防止に努め、乳幼児や高齢者との接触を避けましょう。また、普段からこまめな手洗いを心がけ、十分な睡眠とバランスの良い食事により免疫力を高めておくなど、感染予防対策に努めましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

正月休診を挟みましたので、正確なものではありません。インフルエンザは増加してきています。迅速検査では全てA型です。症状は例年通りです。嘔吐と発熱、下痢の感染性胃腸炎は相変わらず多くない。発熱期間はあっても少なく、ひどい咳を訴える方が目立つ。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが急増。すべてA型。症状は中等度・短期の発熱、軽度の咳嗽で、抗ウイルス薬の効果もあり、特に重症例は見られていない。感染性腸炎も流行。ノロ陽性例が僅か、ロタ陽性例はない。他に水痘があった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

A 型インフルエンザが急増している。高熱が主で呼吸器症状を伴うものが多い。発熱のみ、もしくは熱がなく咳嗽、鼻汁のみの例もみられる。抗インフルエンザ薬はどれも効果がみられている。ウイルス性胃腸炎も増加、嘔吐の強い例からはノロウイルスが検出されている。

インフルエンザ注意報発令です!

インフルエンザ予防には、外出後の手洗い等、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えることなどが大切です。

今週の概要

- ～海外へ渡航される方へ～

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	10.51	(5.20)	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	6.94	(5.06)	↗	↗	↗	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	2.74	(2.59)	↗	→	↑	↑↑
4	RSウイルス感染症	0.79	(0.21)	↑	↑	↗	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.59	(0.62)	→	↗	→	→

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点当たり報告数は、注意報基準値の10を上回りました。今後さらに増加することが予想されます。中和保健所西部地域では、県内でも特に報告数の多い状況が続いています。咳やくしゃみ等の症状がある人は、咳エチケットを徹底しましょう。特に電車や職場、学校など人の集まるところで行うことが大切です。またインフルエンザを発症した場合、解熱後もウイルス排出があるとされています。早期に軽快しても周りの方へ感染を拡げてしまう可能性があるため、外出を控えるなど、医師の指示に従い行動して下さい。

～海外へ渡航される方へ～

年末年始を海外で過ごされる方もいらっしゃるかと思います。海外では、日本にはない病気がたくさんあります。海外旅行では、時差や気候の違いなどから、(自覚していなくても)様々なストレスを受けます。その結果、免疫力が低下し、病気にかかりやすくなってしまいます。無理のないスケジュールを心がけ、避けられる危険を避け、楽しい旅行にして下さい。

◆ 旅行中に気をつけること ◆

- 生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
- 食事は十分に火の通った信頼できるものを食べましょう。
- 蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、必要があれば虫よけ剤を使うなどしましょう。
- 動物は狂犬病、MERS や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあるので、むやみに触らないようにしましょう。
- 薬物やゆきずりの性交渉で感染し、一生の後悔をすることのない行動をとりましょう。



(参考)
 厚生労働省検疫所 FORTH
<https://www.forth.go.jp/news/20181119.html>

次回週報(第52週)は、平成31年1月8日(火)に発行いたします。